

バージョン 2003.06.13
Windows



デスクトップ製品インストール ガイド

バージョン 2003.06.13
Windows



デスクトップ製品インストール ガイド

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、81 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： S126-5304-01
Rational Software
Desktop Products Installation Guide
Version 2003.06.13
Windows

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1992, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

| | |
|---|-----------|
| 表 | vii |
| まえがき | ix |
| 本書について | ix |
| 対象読者 | xi |
| マニュアル ロードマップ | xii |
| 表記規則 | xii |
| その他の参照先 | xiii |
| IBM Rational ソフトウェア サポートへの問い合わせ | xiii |
| 第 1 章 インストール前に必要な作業 | 1 |
| IBM Rational 製品の以前のリリースからのアップグレード | 1 |
| IBM Rational ClearCase での異なるバージョンのインストール | 1 |
| IBM Rational Software デスクトップ製品のインストールの準備 | 2 |
| IBM Rational デスクトップ製品のライセンス | 3 |
| License Key Administrator (LKAD) ウィザードの使用法 | 4 |
| ClearCase LT のライセンス | 5 |
| ClearQuest のライセンス | 5 |
| Rose バリエーションのライセンス | 5 |
| Web クライアントのライセンス | 5 |
| Windows ターミナル サーバー上の製品のライセンス | 5 |
| ライセンス管理ガイドの使用法 | 5 |
| 管理者権限 | 6 |
| デスクトップ システムとソフトウェアの要件 | 7 |
| 展開方法の選択 | 15 |
| IBM Rational Suite のインストールの準備 | 16 |
| IBM Rational ClearCase LT のインストールの準備 | 18 |
| 同じデスクトップへの複数のバリエーションのインストール | 18 |
| Rational Suite の一部として ClearCase LT をインストールする | 19 |
| Internet Explorer のインストール | 20 |
| CLEARCASE_PRIMARY_GROUP 環境変数の設定 | 20 |
| IBM Rational ClearQuest のインストールの準備 | 20 |
| 互換性に関する問題 | 22 |
| IBM Rational 製品との互換性 | 22 |
| VS.NET との統合の設定 | 22 |
| Windows Terminal Server 環境での Rational ソフトウェアのインストール | 22 |
| Crystal Reports の各種バージョンの共存 | 23 |
| DB2 クライアントのインストール | 23 |
| Web ブラウザのインストール | 23 |
| New ClearQuest Web の Web ブラウザの設定 | 23 |
| IBM Rational Process Workbench のインストールの準備 | 23 |
| IBM Rational ProjectConsole のインストールの準備 | 24 |
| ProjectConsole Web クライアントと Template Builder のセットアップ | 25 |
| モニターのスクリーン領域の設定 | 25 |
| cookie の有効化 | 25 |
| ProjectConsole Web サイトへのログイン | 25 |
| Java プラグインのインストール | 26 |
| ProjectConsole Template Builder のインストール | 26 |
| IBM Rational RequisitePro のインストールの準備 | 27 |
| RequisitePro クライアントのセットアップ | 27 |

| | |
|--|-----------|
| Oracle クライアントのインストール | 28 |
| DB2 クライアントのインストール | 28 |
| RequisiteWeb クライアントのセットアップ | 28 |
| IBM Rational Rose のインストールの準備 | 29 |
| 同じデスクトップへのバリエーションのインストール | 29 |
| デスクトップでの Rose のセットアップ | 29 |
| ユーザー パスへの IBM Rational ディレクトリの追加 | 30 |
| IBM Rational テスト製品のインストールの準備 | 30 |
| IBM Rational TestManager について | 32 |
| IBM Rational ManualTest Web execution について | 32 |
| IBM Rational Robot について | 32 |
| IBM Rational TeamTest について | 33 |
| IBM Rational Test データストアについて | 33 |
| IBM Rational QualityArchitect について | 33 |
| IBM Rational Test Agent について | 33 |
| パフォーマンス テスト用のクライアント ソフトウェアのインストール | 34 |
| Oracle クライアント ソフトウェア | 34 |
| Sybase クライアント ソフトウェア | 34 |
| SQL Server クライアント ソフトウェア | 34 |
| TUXEDO プロトコル ソフトウェア | 35 |
| SAP プロトコル ソフトウェア | 35 |
| DCOM/COM+ プロトコル ソフトウェア | 35 |
| WebLogic/EJB プロトコル ソフトウェア | 35 |
| IBM Rational Test Enablers について | 35 |
| IBM Rational XDE Tester について | 36 |
| IBM Rational XDE Modeler とXDE Developer のインストールの準備 | 36 |
| 第 2 章 IBM Rational 製品のインストール | 37 |
| IBM Rational 製品の以前のリリースの削除 | 37 |
| IBM Rational 製品の展開 | 37 |
| IBM Rational セットアップ ウィザードの使用法 | 38 |
| IBM Rational セットアップ ウィザードの開始前の注意点 | 39 |
| Rational_install ログ | 40 |
| レジストリ サイズ | 40 |
| [カスタム セットアップ] ページの使用法 | 40 |
| IBM Rational ライセンス サーバーの指定 | 42 |
| CD または Web ダウンロードからの Rational 製品のインストール | 42 |
| リリース領域からの製品のインストール | 44 |
| 標準構成の使用法 | 44 |
| ユーザー独自の構成のカスタマイズ | 46 |
| サイレント インストール コマンドの使用法 | 47 |
| サイレント インストールの概要 | 47 |
| サイレント インストールの実行 | 48 |
| サイレント インストールのキャンセル | 49 |
| 製品を削除するためのコマンド行の使用法 | 49 |
| インストール後のコマンドの使用法 | 49 |
| インストール後のタスク | 49 |
| ライセンス | 49 |
| 製品をインストールするためのチェックリスト | 51 |
| 製品のインストールのキャンセル | 51 |
| 製品を再インストールする (変更または修復の場合) | 51 |
| IBM Rational セットアップ ウィザードの警告またはブロック | 52 |
| サービス リリースの適用 | 52 |
| 第 3 章 インストール後に必要な作業 | 55 |
| IBM Rational ClearCase LT のインストール後に必要な作業 | 55 |

| | |
|--|-----------|
| ビューの作成 | 55 |
| ClearCase Web へのログイン | 55 |
| IBM Rational ClearQuest のインストール後に必要な作業 | 56 |
| DB2 データベース 別名の作成 | 56 |
| ClearQuest データベースへの接続 | 57 |
| 新しい接続の作成 | 57 |
| 接続プロファイルの使用 | 59 |
| 接続プロファイルのインポート | 59 |
| ClearQuest へのログイン | 60 |
| Crystal Reports と ClearQuest Windows クライアントの併用 | 60 |
| 電子メール通知を受信するための ClearQuest クライアントの設定 | 61 |
| 電子メール通知を送信するための ClearQuest クライアントの設定 | 61 |
| コラボレーション データ オブジェクトのインストール | 62 |
| New ClearQuest Web へのログイン | 62 |
| 電子メール通知を受信するための New ClearQuest Web クライアントの設定 | 63 |
| IBM Rational RequisitePro のインストール後に必要な作業 | 63 |
| 各クライアントにおける Oracle データベース エイリアスの定義 | 63 |
| 各クライアントにおける DB2 データベース別名の定義 | 63 |
| RequisitePro プロジェクトの作成 | 64 |
| データ トランスポート ウィザードの使用 | 64 |
| Oracle でのプロジェクトの作成 | 64 |
| SQL Server でのプロジェクトの作成 | 65 |
| DB2 でのプロジェクトの作成 | 67 |
| RequisiteWeb へのログイン | 68 |
| 追加テスト ソフトウェアのインストール | 69 |
| ネットワーク ドライバのインストールと削除 | 69 |
| Windows NT でのネットワーク ドライバのインストール | 69 |
| Windows NT からのネットワーク ドライバの削除 | 70 |
| Windows XP または Windows 2000 でのネットワーク ドライバのインストール | 70 |
| Windows XP または Windows 2000 からのネットワーク ドライバの除去 | 71 |
| IBM Rational Test Agents のインストール | 71 |
| Windows Agent のインストール | 72 |
| UNIX Agent のインストール | 72 |
| UNIX Agent の除去 | 73 |
| ManualTest Web へのアクセス | 73 |
| Web ブラウザのセットアップ | 74 |
| ManualTest Web へのアクセス | 74 |
| トラブルシューティング | 75 |
| サンプル アプレットのインストール | 76 |
| 第 4 章 IBM Rational 製品の削除 | 79 |
| IBM Rational ソフトウェアを削除する前に | 79 |
| IBM Rational ソフトウェアの削除 | 80 |
| RUP Modeler の削除 | 80 |
| 付録. 特記事項. | 81 |

表

| | |
|--|----|
| 1. 各製品に対応するインストレーション ガイド | ix |
| 2. IBM Rational デスクトップ製品のインストール前のタスク | 2 |
| 3. デスクトップ製品のライセンス | 3 |
| 4. デスクトップの要件と推奨事項 | 7 |
| 5. セットアップ ウィザードの展開方法 | 16 |
| 6. IBM Rational Suite をデスクトップにインストールするためのチェックリスト | 17 |
| 7. ClearCase LT ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト | 18 |
| 8. ClearCase Web クライアントをインストールするためのチェックリスト | 19 |
| 9. ClearQuest ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト | 21 |
| 10. ClearQuest Web クライアントをインストールするためのチェックリスト | 22 |
| 11. ProjectConsole クライアントをインストールするためのチェックリスト | 25 |
| 12. RequisitePro ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト | 27 |
| 13. RequisitePro Web クライアントをインストールするためのチェックリスト | 28 |
| 14. Rose をデスクトップにインストールするためのチェックリスト | 29 |
| 15. IBM Rational テスト製品をデスクトップにインストールするためのチェックリスト | 30 |
| 16. インストール タスク | 37 |
| 17. [カスタム セットアップ] ページ | 41 |
| 18. 警告/ブロックと解決法 | 52 |
| 19. ClearQuest ネイティブ クライアントのインストール後に必要な作業 | 56 |
| 20. New ClearQuest Web クライアントのインストール後に必要な作業 | 56 |
| 21. 追加テスト ソフトウェアのインストール | 69 |

まえがき

Rational Suite は、ソフトウェア開発におけるベスト プラクティスを具体化すると共に、ソフトウェア開発工程全体をカバーする包括的な統合ツール群です。また、Rational Suite は高度に統合されているため、チーム内とチーム間のコミュニケーションの向上、開発期間の短縮、ソフトウェア品質の向上を実現できます。

本書について

本書では、デスクトップまたはクライアントに初めて IBM Rational 製品をインストールし、ライセンスを取得する場合の条件と手順について説明します。ご使用の環境での Rational 製品の配置方法については、システム管理者に相談してください。

Rational サーバー ソフトウェアのインストールとライセンス取得に関する手順と要件については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。既存の Rational Suite インストールのアップグレードについては、『IBM Rational Suite アップグレードガイド』を参照してください。

表 1に、各製品にクライアント コンポーネントとサーバー コンポーネントが含まれるかどうかを示しています。両方のコンポーネントが含まれる場合は、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』と『IBM Rational Software デスクトップ製品 インストールガイド』を参照してください。

表 1. 各製品に対応するインストールガイド

| 製品 | クライアント/ サーバー | 参照するインストールガイド |
|---|-----------------|---|
| IBM Rational Suite | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品、 IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| ClearCase LT (ClearCase Web を含む) | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品、 IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| ClearQuest | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品、 IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| ClearQuest MultiSite | サーバー | IBM Rational Software サーバー製品 |
| IBM Rational ManualTest Web Execution | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品、 IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Rational Process Workbench | デスクトップ | IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Rational ProjectConsole | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品、 IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Purify, PurifyPlus, PureCoverage, および Quantify | デスクトップ | 最新の要件とサポートされるソフトウェアについては、『IBM Rational PurifyPlus ファミリー製品リリース ノート』を参照してください。 |
| QualityArchitect | デスクトップ | IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| RequisitePro (RequisiteWeb を 含む) | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品、 IBM Rational Software デスクトップ製品 |

表 1. 各製品に対応するインストール ガイド (続き)

| 製品 | クライアント/ サーバー | 参照するインストール ガイド |
|------------------------------|-----------------|---|
| Robot | デスクトップ | IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Rose | デスクトップ | IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Rose Data Modeler | デスクトップ | <p>Rose Data Modeler では、データベースの製造元ごとにモデルを作成します。サポートされている製造元データベースのリストについては、『IBM Rational Software デスクトップ製品インストール ガイド』を参照してください。</p> <p>Rose Data Modeler の設定方法は、どちらのインストール ガイドにも特に記載されていません。</p> <p>データベースのインストールと設定については、製造元のマニュアルを参照してください。</p> |
| Rose RealTime | デスクトップ | <p>IBM Rational Rose RealTime のインストール ガイドは、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または IBM® Publications Center:</p> <p>http://www.ibm.com/shop/publications/order に収録されています。</p> |
| TeamTest | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品 (Test データストアの設定用) IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Test Agents (UNIX/Windows) | デスクトップ | IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| Test Enablers | デスクトップ | IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| TestManager | 両方 | IBM Rational Software サーバー製品 (Test データストアの設定用)、IBM Rational Software デスクトップ製品 |
| IBM Rational Unified Process | デスクトップ | サポートされている Web ブラウザのリストについては、『IBM Rational Software デスクトップ製品インストール ガイド』を参照してください。インストール前やインストール後のその他の要件はありません。 |
| XDE Modeler と XDE Developer | デスクトップ | IBM Rational XDE メディア キットに収録されている『XDE Modeler および XDE Developer リリース ノート』を参照してください。 |

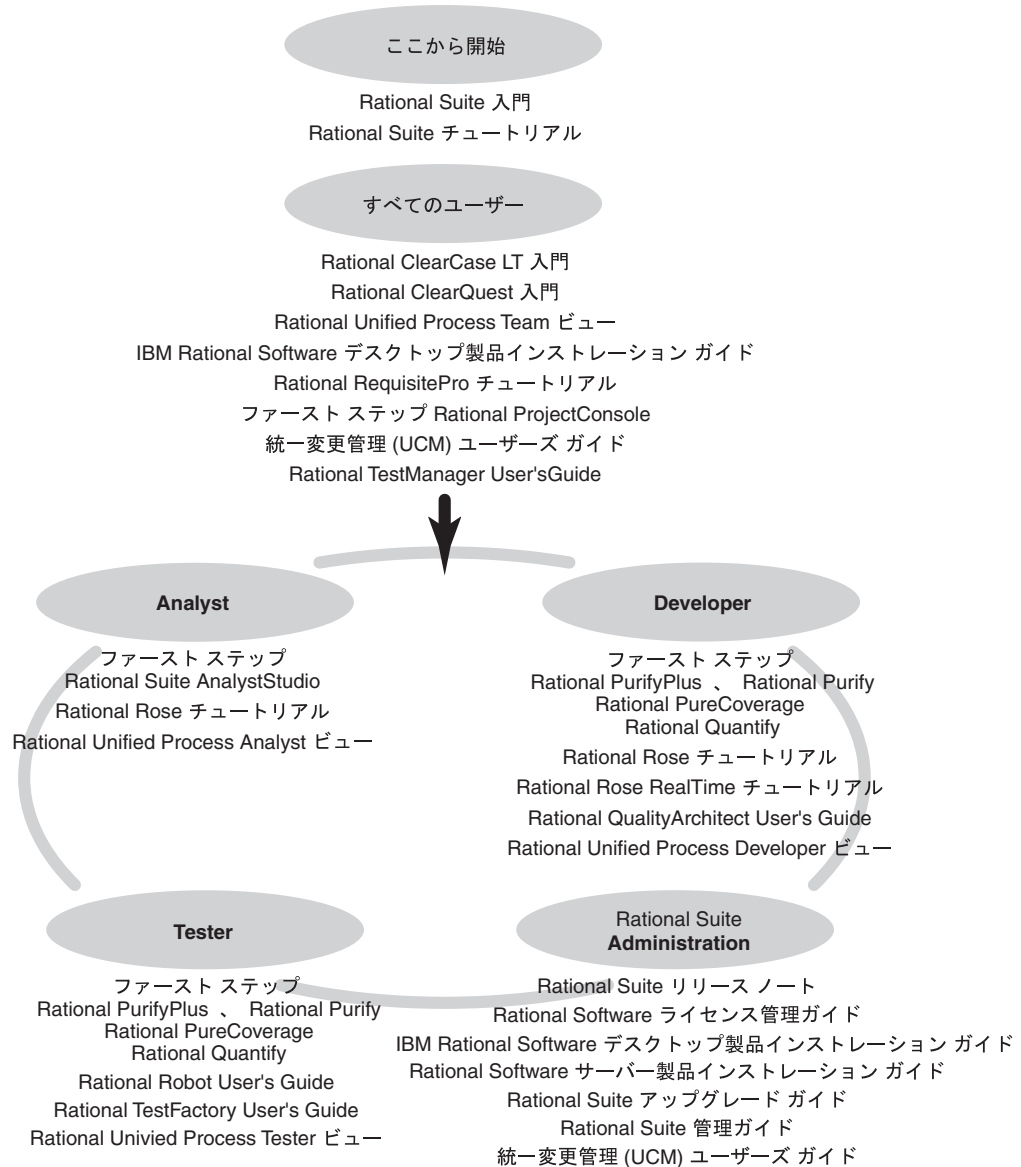
表 1. 各製品に対応するインストール ガイド (続き)

| 製品 | クライアント/ サーバー | 参照するインストール ガイド |
|------------|-----------------|--|
| XDE Tester | デスクトップ | <p>XDE Tester メディア キットに収録されている XDE Tester または『XDE Tester リリース ノート』</p> <p>Robot J から XDE Tester にアップグレードする方法については、『IBM Rational Suite アップグレード ガイド』を参照してください。</p> |

対象読者

本書は、IBM Rational 製品を初めてコンピュータにインストールするプロジェクトマネージャー、およびソフトウェア開発チームのすべてのメンバーを対象にしています。すべてのユーザーが Microsoft Windows およびその規則に習熟している必要があります。

マニュアル ロードマップ



表記規則

本書では、次の表記規則を使用します。

- `ccase-home-dir` は、ClearCase 製品ファミリーがインストールされているディレクトリを表します。デフォルトでは、このディレクトリは `/opt/rational/clearcase` (UNIX の場合)、および `C:\Program Files\Rational\ClearCase` (Windows の場合) です。
- `cquest-home-dir` は、Rational ClearQuest がインストールされているディレクトリを表します。デフォルトでは、このディレクトリは `/opt/rational/clearquest` (UNIX の場合)、および `C:\Program Files\Rational\ClearQuest` (Windows の場合) です。
- **太字**は、コマンド名やブランチ名など、ユーザーが入力できる名前の表記に使用します。

- ファイル名、ディレクトリ名、ファイル拡張子は、*sans serif* フォントで表記します。
- メニュー名やチェック ボックス名のような、GUI 要素は、[] で囲んで表記します。
- 斜体 は、変数、マニュアル タイトル、用語、強調に使用します。
- 等幅 フォントは、例の表記に使用します。ユーザーの入力をプログラム出力と区別する必要がある場合は、ユーザーの入力の表記に**太字**を使用します。
- 出力されない文字は <EOF>、<NL> のように表記されます。
- キー名とキーの組み合わせは、大文字で「[SHIFT] を押します」、または「[CTRL] を押しながら [G] を押します」と表記します。
- 書式や構文の説明で、オプション項目を囲むときに [] (角カッコ) を使用します。
- 書式や構文の説明で、必須選択項目のあるリストを囲むときに { } (中カッコ) を使用します。
- | (縦棒) は、選択リストの項目を区切るときに使用します。
- 構文の説明に ... (省略符号) があるときは、先行する項目や行が 1 回以上繰り返し可能であることを示します。それ以下の場合は、省略情報を示します。

注: 一部のコンテキストでは、パス名の中で「*」や「?」と同じようにワイルドカードとして「...」を使用することができます。詳しくは、**wildcards_ccase** の参照ページを参照してください。

- コマンド名やオプション名に短縮形がある場合、「slash」(/) 文字が最も短い正当な省略形を示します。例を次に示します。

lsc/heckout

その他の参照先

- マニュアルはすべてオンライン (HTML 形式または PDF 形式) で参照できます。オンライン マニュアルは、IBM Rational Solutions for Windows Online Documentation CD-ROM に収録されています。
- IBM Rational ソフトウェアの技術資料については <http://www.ibm.com/shop/publications/order> (ただし、英語のみのご利用となります) を参照してください。
- トレーニング コースの詳細については、<http://www-306.ibm.com/services/learning> を参照してください。
- Rational Suite 製品を使用したソフトウェア開発に関する記事、ディスカッションフォーラム、ウェブ ベースのトレーニング コースについては、次の手順に従って、Rational Developer Network に参加してください。Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[Rational Software] の順にポイントし、[Rational Developer Network へのログイン] をクリックします。

IBM Rational ソフトウェア サポートへの問い合わせ

本製品のインストール、使用、保守に関するご質問については、以下の IBM Rational ソフトウェア サポートまでお問い合わせください。

サポートの資格をお持ちのすべてのお客様は、電話や電子メールによるサポートもご利用になれます。詳しくは、<http://www.ibm.com/jp/software/rational/support> をご参照ください。

IBM Rational ソフトウェア サポートのインターネット サイトでは、ご自分でサポート情報を検索することができます。詳しくは、<http://www.ibm.com/planetwide> をご参照ください。

注: まず次の内容に答える準備をしてから、IBM Rational ソフトウェア サポートにお問い合わせください。

- お名前、会社名、電話番号、電子メールアドレス
- オペレーティング システム、バージョン番号、適用されているサービス パックまたはパッチ
- 製品名とリリース番号
- PMR 番号 (以前に報告した問題の続きである場合)

第 1 章 インストール前に必要な作業

この章では、IBM Rational Suite または IBM Rational 単体製品をデスクトップまたはクライアントにインストールする前に行う必要のあるタスクについて説明します。また、製品をデスクトップにインストールして設定するためのチェックリストも示します。このマニュアルでは、次の項目については説明していません。

- IBM Rational Rose® RealTime のインストール。Rational® Solutions for Windows® Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> を参照してください。
- XDE Modeler と XDE™ Developer のインストール。IBM Rational XDE メディア キットに収録されているリリース ノートを参照してください。
- XDE Tester のインストール。IBM Rational XDE Tester メディア キットに収録されているインストレーション ガイドを参照してください。
- IBM Rational サーバーのインストール。『IBM Rational Software サーバー製品インストレーション ガイド』を参照してください。
- クライアントとサーバーのインストール用リリース領域 (エンタープライズ レベルでの使用向けに展開) の設定。『IBM Rational Software サーバー製品インストレーション ガイド』を参照してください。

注: 管理者がリリース領域を設定している場合には、本書の説明に従ってリリース領域から製品をインストールできます。リリース領域からのインストールとその他の展開方法については、15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。

IBM Rational 製品の以前からのリリースからのアップグレード

IBM Rational 製品をバージョン 2003.06.13 からインストールする前に、IBM Rational ライセンス サーバーを含む Rational 製品の以前のバージョンがインストールされている場合、ユーザーかシステム管理者は『IBM Rational Suite アップグレード ガイド』を参照する必要があります。このガイドは、IBM Rational Solutions for Windows Online Documentation CD-ROM で参照するか、IBM Publications Center からダウンロードできます。唯一の例外は IBM Rational ClearCase です。前のバージョンの ClearCase と共に製品をインストールできます。

注: フローティング ライセンスを使用している場合は、IBM Rational 製品をコンピュータで更新する前に、ライセンス サーバー名を記録しておきます。新しい IBM Rational 製品をコンピュータにインストールした後、License Key Administrator でホスト名をリセットします。

IBM Rational ClearCase での異なるバージョンのインストール

ただし、次のような場合には、異なるバージョンを IBM Rational ClearCase でインストールできます。

- スタンドアロンまたは Rational Suite の一部である IBM Rational ClearQuest と、ClearCase 4.2 ~ 6.0

- IBM Rational Suite と、ClearCase 4.2 ～ 6.0
- IBM Rational XDE と、(すべてのパッチを適用した) Rational ClearCase 4.2 または 6.0

IBM Rational Software デスクトップ製品のインストールの準備

表 2 に、IBM Rational デスクトップ製品をインストールして設定する前に目を通す必要のある参照先を示します。

表 2. IBM Rational デスクトップ製品のインストール前のタスク

| タスク | 参照先 |
|---|---|
| IBM Rational Suite のインストールの準備をする | 16 ページの『IBM Rational Suite のインストールの準備』 |
| ClearCase® LT のインストールの準備をする | 18 ページの『IBM Rational ClearCase LT のインストールの準備』 |
| ClearQuest® のインストールの準備をする | 20 ページの『IBM Rational ClearQuest のインストールの準備』 |
| ProjectConsole と Project Console Template Builder のインストールの準備をする | 24 ページの『IBM Rational ProjectConsole のインストールの準備』 |
| Purify®, PurifyPlus, PureCoverage®, および Quantify® のインストールの準備をする | 最新の要件とサポートされるソフトウェアについては、『IBM Rational PurifyPlus™ ファミリー製品リリース ノート』を参照してください。 |
| Rational Process Workbench® のインストールの準備をする | 23 ページの『IBM Rational Process Workbench のインストールの準備』 |
| RequisitePro® のインストールの準備をする | 27 ページの『IBM Rational RequisitePro のインストールの準備』 |
| Rose のインストールの準備をする | 29 ページの『IBM Rational Rose のインストールの準備』 |
| Rose Data Modeler のインストールの準備をする | <ul style="list-style-type: none"> • Rose Data Modeler では、データベースの製造元ごとにモデルを作成します。製造元のデータベースのリストは、本書の 7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』に記載されています。Rose Data Modeler の設定方法は、どちらのインストレーションガイドにも記載されていません。 • データベースのインストールと設定については、製造元のマニュアルを参照してください。 |
| IBM Rational テストのインストールの準備をする | 30 ページの『IBM Rational テスト製品のインストールの準備』 |
| IBM Rational Unified Process のインストールの準備をする | サポートされている Web ブラウザのリストについては、7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。IBM Rational Unified Process のインストール前やインストール後のその他の要件はありません。 |
| XDE Modeler と XDE Developer のインストールの準備をする | 36 ページの『IBM Rational XDE Modeler と XDE Developer のインストールの準備』 |

表 2. IBM Rational デスクトップ製品のインストール前のタスク (続き)

| タスク | 参照先 |
|---------------------------|--|
| XDE Tester のインストールの準備 | <ul style="list-style-type: none"> 36 ページの『IBM Rational XDE Tester について』 Robot J から XDE Tester にアップグレードする方法については、『IBM Rational Suite® アップグレード ガイド』を参照してください。 |
| CD またはリリース領域からインストールする | <ul style="list-style-type: none"> 15 ページ 37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』 |
| サイレント インストールを実行する | 47 ページの『サイレント インストールの概要』 |
| サービス リリースをインストールする | 52 ページの『サービス リリースの適用』 |
| IBM Rational 製品を修復または変更する | 51 ページの『製品を再インストールする (変更または修復の場合)』 |
| IBM Rational 製品を削除する | <ul style="list-style-type: none"> 79 ページ 49 ページの『製品を削除するためのコマンド行の使用法』 |

IBM Rational デスクトップ製品のライセンス

ほとんどの場合、製品を起動するにはライセンス キーが必要です。必要なライセンス キーについては、ライセンス管理者に問い合わせてください。ライセンス管理者が既にパーマネント ライセンス キーまたは評価用ライセンス キーを要求している場合があります。

表 3 の指示に従って IBM Rational 製品のライセンスを取得します。

表 3. デスクトップ製品のライセンス

| ライセンス キー | ライセンス キーの入手先 | ライセンス キーのインストール 方法 |
|------------------|---|---|
| パーマネント ノードロック | AccountLink (www.ibm.com/software/rational/support/licensing/) (ただし、英語のみ のご利用となります) | License Key Administrator (LKAD) ウィザードを使用して デスクトップにキーをインポート します。 |

表 3. デスクトップ製品のライセンス (続き)

| ライセンス キー | ライセンス キーの入手先 | ライセンス キーのインストール 方法 |
|-------------------|---|--|
| パーマネント フローティング | AccountLink (www.ibm.com/software/rational/support/licensing/) (ただし、英語のみ のご利用となります) | License Key Administrator (LKAD) ウィザードを使用し て、ライセンス サーバーを指定 するようクライアント デスクト ップを設定します。管理者はラ イセンス サーバーを最初にイン ストールして設定する必要があ ります (手順については、 『IBM Rational Software ライセ ンス管理ガイド』を参照してく ださい)。 管理者がリリース領域を設定し た場合には、LKAD ウィザード で手動でライセンス サーバーを 指定する必要はありません。 |
| 評価用フローテ ィング | 営業担当員 | License Key Administrator (LKAD) ウィザードを使用し て、Rational ライセンス サーバ ーを指定するようデスクトップ を設定します。管理者はライセ ンス サーバーを最初にインスト ールして設定する必要がありま す (インストールの手順につい ては、『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』を参照 してください)。 管理者がリリース領域を設定し た場合には、LKAD ウィザード で手動でライセンス サーバーを 指定する必要はありません。 |
| 評価用ノードロ ック | 営業担当員 | License Key Administrator (LKAD) ウィザードを使用して デスクトップにノードロック キ ーをインポートします。 |

License Key Administrator (LKAD) ウィザードの使用方法

License Key Administrator (LKAD) ウィザードでノードロック キーをインポートするか、フローティング ライセンス サーバーを指定します。セットアップ ウィザードを実行すると、各 IBM Rational 製品と共に LKAD が自動的にインストールされます。製品がまだライセンスされていない場合は、インストールの最後に LKAD ウィザードを起動します。または、[スタート] メニューの [Rational Software] フォルダから LKAD を開きます。License Key Administrator のメイン ウィンドウと License Key Administrator ウィザードのページが同時に表示されます。詳細については、LKAD のヘルプを参照してください。

ClearCase LT のライセンス

ClearCase LT サーバーと ClearCase LT クライアントが別のシステムにインストールされている場合は、個別のフローティング ライセンスが必要です。ClearCase LT を評価する場合は、ClearCase LT サーバーがサーバーとクライアントの両方の役割を果たすので、フローティング ライセンスは 1 つのみでかまいません。

ClearCase LT では、ノードロック IBM Rational Suite ライセンス キーが使用できます。ノードロック ライセンスをインストールした後、[ライセンスの使用状況] を使用して、ClearCase LT が Rational Suite キーを使用するように指定します。IBM Rational では、ClearCase LT 用の単独使用ノードロック ライセンスは提供していません。[ライセンスの使用状況] の詳細については、『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』または License Key Administrator のヘルプを参照してください。

ClearQuest のライセンス

ClearQuest ネイティブ クライアントごとにフローティング ライセンスまたはノードロック ライセンスへのアクセス権が必要です。

Rose バリエーションのライセンス

IBM Rational Rose は、ユーザーがインストールした Rose バリエーションに対応するライセンス キー、またはユーザーがインストールした Rose バリエーションを含む Rational Suite キーを使用します。

Web クライアントのライセンス

ClearCase Web、New ClearQuest Web、RequisiteWeb、ProjectConsole™ を使用する場合は、管理者は Rational ライセンス サーバーにフローティング ライセンスをインストールする必要があります。Web サーバー (ClearQuest Web Application サーバーまたは Rational Web platform) は、Web クライアントごとに Rational ライセンス サーバーにライセンス キーを要求します。Web クライアントを使用するために、デスクトップにライセンス キーをインストールする必要はありません。

Windows ターミナル サーバー上の製品のライセンス

Windows ターミナル サーバー上での開発をサポートする IBM Rational 製品を使用するには、フローティング ライセンスが必要です。

ライセンス管理ガイドの使用法

ライセンスの取得方法または製品固有のライセンス取得については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> に含まれる『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』を参照してください。『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』には、AccountLink、Rational ライセンス条件、Rational License Key Administrator (LKAD) の説明が記載されています。このガイドでは、フローティング キーとノードロック キーの要求、インストール、アップグレード、設定に関する手順を説明しています。

管理者権限

Windows オペレーティング システムに IBM Rational 製品をインストールするには、適切な権限を使用してログオンする必要があります。ローカル コンピュータの管理者グループのメンバーである Windows ドメイン アカウントにログオンする必要があります。サイレント インストールを含め、インストール方法に関わりなく、正しい特権を持っている必要があります。

注: 適切な権限を使用してログオンしない場合は、製品のインストールが失敗します。正しくない権限が原因で失敗したインストールのログ ファイルには、データが格納されません。

デスクトップ システムとソフトウェアの要件

表 4 に、デスクトップで Rational デスクトップ製品を実行するための要件と推奨事項を示します。その他の要件については、この章の該当する製品の項を参照してください。

表 4. デスクトップの要件と推奨事項

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|--------------|--|
| オペレーティングシステム | <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows XP Professional、Service Pack 1、1a (Service Pack 2 についての注を参照してください)• Microsoft Windows 2000 Professional、Service Pack 2、3、4• Microsoft Windows 2000 Server、Service Pack 2、3、4• Microsoft Windows 2000 Advanced Server、Service Pack 2、3、4• Microsoft Windows NT 4.0 Workstation Service Pack 6a と SRP (Security Rollup Package、Q299444) <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">• これらの要件が最終的に決定された時点で、Windows XP SP2 の製品リリースは最終テストに使用できませんでした。Windows XP SP2 サポートの最新情報については、http://www.ibm.com/software/rational/support の IBM Rational サポートに移動して「Rational products and Windows XP SP2」を参照してください。Microsoft Windows XP SP2 がこのリリースの IBM Rational 製品に与える影響の詳細については、『IBM Rational Suite リリース ノート』の「サード パーティ製品との互換性」を参照してください。• また、PurifyPlus、Purify、Quantify、PureCoverage は、Windows 2003 Server、Windows 2003 Enterprise Server、Windows XP (Service Pack なし)、Windows 2000 Server (Service Pack 2、3、4)、Windows 2000 Advanced Server (Service Pack 2、3、4)、Windows 2000 Windows Terminal Server (Service Pack 2、3、4、PurifyPlus は WTS アプリケーションをテストします。リモート側で実行しないでください。)、Windows NT 4.0 Server (Service Pack 6a と SRP)、Windows NT 4.0 Terminal Server Edition (Service Pack 6a と Terminal Server Edition SRP、Q317636) をサポートします。• Robot と TestManager では Windows 98、98 Second Edition、および Windows ME もサポートしています。ただし、Windows 98、98 Second Edition、Windows ME に TestManager をインストールする場合、Rational Administrator はインストールされません。• Windows XP Professional、Windows 2000 Professional、Windows NT Workstation を RequisitePro、ClearCase LT Web、New ClearQuest Web に関連付けられた Web サーバーで使用しないでください。これらのオペレーティングシステムを ClearCase の VOB サーバーや、少数のユーザーの ClearQuest (SQL Anywhere または Microsoft Access のデータベース) サーバーとして使用することができます。サーバー オペレーティングシステムを使用することを推奨します。• このリリースでは、Windows XP Home Edition はサポートされていません。• XDE for Visual Studio.NET 2003 は、Windows NT をサポートしません。 |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|--------------------------|---|
| ハードウェア | <ul style="list-style-type: none"> • 500 ~ 600 MHz 以上 • 256 ~ 512 MB 以上の RAM。メモリが大きいほど、パフォーマンスがよくなります。 • スワップ スペース: 2 x 物理メモリ • 解像度 800 x 600 x 256 色以上。High Color または True Color を推奨 • Microsoft Mouse または Microsoft 互換ポインティング デバイス <p>注: 512 MB RAM。XDE Developer と Developer Plus のバージョンには 1 GB を推奨します。</p> |
| リモート アクセスのサポート | 『IBM Rational Software サーバー製品インストール ガイド』または『IBM Rational Suite リリース ノート』の表「サーバーの要件と推奨事項」を参照してください。 |
| Rational Suite ディスク・スペース | <ul style="list-style-type: none"> • Rational Suite Enterprise - 1.6 GB (フル インストール)、1.2 GB (標準インストール) • Rational AnalystStudio - 1.2 GB (フル インストール)、851 MB (標準インストール) • Rational DevelopmentStudio - 1.4 GB (フル インストール)、1.1 GB (標準インストール) • Rational DevelopmentStudio for UNIX (Windows コンポーネントのみ) - 515 MB (フル インストール)、445 MB (標準インストール) • Rational DevelopmentStudio - RealTime Edition - 1.4 GB (フル インストール)、1.1 GB (標準インストール) • Rational DevelopmentStudio - RealTime Edition for UNIX (Windows コンポーネントのみ) - 515 MB (フル インストール)、445 MB (標準インストール) • Rational TeamTest - 645 MB (フル インストール)、583 MB (標準インストール) • Rational Team Unifying Platform - 1.1 GB (フル インストール)、825 MB (標準インストール) |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|-----------------------|--|
| 単体製品ディスク容量 | <p>ClearCase LT クライアント ファイルの記憶スペース:</p> <p>Rational ClearCase LT には、スナップショット ビューにロードされたすべてのファイルとビューに追加されたすべてのビュー プライベート ファイルを格納できるだけのディスク容量がデスクトップ上に必要です。必要なディスク容量は、ビューに含まれるファイルの数とサイズによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ClearQuest Native Client: 371 MB (フル インストール)、321 MB (標準インストール) • PurifyPlus for Windows: 70 MB (フル インストール)、68 MB (標準インストール) • QualityArchitect: 250 MB • Rational Test Agent: 425 MB (大規模な仮想テスターの実行にはこれ以上のディスク容量をお勧めします。) • Rational Unified Process: 70 MB (フル インストール/標準インストール) • Rational Unified Process Modeler: 50 MB • Rational Unified Process Organizer: 150 MB • RequisitePro: 192 MB (フル インストール)、176 MB (標準インストール) • Robot: 282 MB (フル/標準インストール) • Rose Enterprise Edition: 720 MB (標準)、173 MB (コンパクト) • SoDA: 150 MB (Microsoft Word)、100 MB (FrameMaker) • XDE: インストール先のドライブ 500 MB (最小容量)、ワークスペース 100 MB、ただし、ワークスペースには 2 ～ 5 GB を推奨します。 |
| サード パーティ アプリケーションとの統合 | |
| ClearCase LT | <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Office 2000 Service Pack 1、2 または 2002 Service Pack 1、2 または 2003 • Microsoft Word 2000 Service Pack 1、2 または 2002 Service Pack 1、2 または 2003 • FrameMaker 5.5.6 (UNIX 上) |
| ClearQuest | <ul style="list-style-type: none"> • Crystal Reports 8.5、10.0 • Microsoft Project 98、2000、2002、2003 • Visual Source Safe 6.0、Service Pack 3 または .NET |
| ProjectConsole | <ul style="list-style-type: none"> • Template Builder: Microsoft Word 2000 Service Pack 1、2; 2002 Service Pack 1、2; 2003 (ProjectConsole Template Builder のテンプレートを作成する必要があります) • Collection Agent: 収集エージェントとレポート サーバー ソフトウェアをその他のコンポーネントにインストールする場合は、それらが Web サーバーとしての ProjectConsole Web ソフトウェアと同じバージョンである必要があります。 • メトリクスの収集や Microsoft Project (2000 Professional、Microsoft Project 2002 (.mpp のみ)、Rational XDE v2003) からのレポートの生成を実行している場合は、Microsoft Project を収集エージェントおよびレポート サーバーとともにマシンにインストールする必要があります。メトリクスの収集や IBM Rational 製品からのレポートの生成を実行している場合は、その製品が収集エージェントおよびレポート サーバーとともにマシンにインストールされている必要があります。 |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|--|--|
| RequisitePro | <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Office 2000 Service Pack 1、2 または 2002 Service Pack 1、2 • Microsoft Project 2000 Service Pack なし、Service Pack 1 または 2002 • Microsoft Word 2000 Service Pack 1、2 または 2002 Service Pack 1、2 または 2003 • Microsoft Excel 2000 Service Pack 1、2 または 2002 ServicePack 1、2 または 2003 |
| SoDA | <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Word 2000 Service Pack 1、2 または 3 • Microsoft Word 2002、Service Pack 1、2 • Microsoft Word 2003、Service Pack 1 |
| TestManager | <ul style="list-style-type: none"> • Crystal Reports 8.5、10.0 |
| IDE、サード パーティ 開発アプリケーションとの統合、アドイン。バージョン 2003.06.00 リリースで対応した以前のバージョンの Eclipse、WebSphere Studio Workbench、WebSphere Application Developer は、このリリースでも対応します。 | |
| ClearCase LT | <ul style="list-style-type: none"> • Forte for C++ 6.x、Update 1 • Forte for Java 2.0、3.0 • IBM VisualAge for Java 3.5.3、4.0 • IBM WebSphere Application Developer 5.0、5.1.1、5.1.2 • IBM WebSphere Application Developer Integration Edition 5.0 • IBM WebSphere Studio Enterprise Developer 5.0 • IBM WebSphere Studio Site Developer 5.0、5.1.1、5.1.2 • IBM WebSphere StudioWorkbench 2.1.2 • JBuilder 4.x ~ 8.x • Microsoft PowerBuilder 6.x ~ 9.x • Microsoft Visual Basic 6.0 Service Pack 4、5 • Microsoft Visual C++ 5.0、6.0 Service Pack 4、5 • Microsoft Visual InterDev 6.0 • Microsoft Visual J++ 6.0 Service Pack 4、5 • Microsoft Visual Studio .NET 7.0 Service Pack 1 (.NET Framework Service Pack 2 を含む) または Studio .NET 7.1 • Oracle JDeveloper 9.0 • SunOne for Java 4.0 • WebGain Studio 4.5.2 • WebGain Visual Cafe 4.1 Expert Edition、4.5.2 以上の Expert Edition と Enterprise Edition |
| ClearQuest | <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Visual Studio .NET 7.0 Service Pack 1 (.NET Framework Service Pack 2 を含む) または Studio .NET 7.1 • IBM WebSphere Application Developer 5.0、5.1.1 • IBM WebSphere Application Developer Integration Edition 5.0 • IBM WebSphere Studio Enterprise Developer 5.0 • IBM WebSphere Studio Site Developer 5.0、5.1.1 • IBM WebSphere Studio Workbench 2.1.2 <p>注: ClearQuest Eclipse Client プラットフォームのサポートと統合の詳細については、ClearQuest Eclipse Client のマニュアルを参照してください。</p> |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|---|---|
| Purify、PurifyPlus、PureCoverage、および Quantify | PurifyPlus は WebSphere Studio Workbench 2.1.2 および WebSphere Application Developer 5.1.2 をサポートしています。最新のサポート情報に関しては、PurifyPlus 製品ファミリのリリース ノートを参照してください。 |
| Robot と TestManager | <ul style="list-style-type: none"> Visual Basic 言語で記述されたテスト スクリプトを開発または実行する場合は、Visual Basic 6.0 が必要です。 Java テスト スクリプトを開発または実行する場合は、Java Development Kit (JDK) が必要です。 TestManager は VMware GSX Server 2.5.0 以降をサポートしています。 |
| Rose | <p>Rose C++ Professional、Rose Data Modeler Professional、Rose Enterprise、Rose Web Modeler</p> <ul style="list-style-type: none"> Microsoft Visual Basic 6.0 (Visual Studio 6.0、Service Pack 4、5) Microsoft Visual C++ 6.0 (Visual Studio 6.0、Service Pack 4、5) Microsoft Visual Studio .NET 7.0 Service Pack 1 (.NET Framework Service Pack 2 を含む) または Studio .NET 7.1 Microsoft .NET Framework (v.1.1 以上) では、Rose Data Modeler と Rose Web Modeler アドインのインストールが必要です。必要な .NET パージョンをインストールしないでインストールの継続を選択すると、これらのアドインはインストールされず、すでにインストールされているバージョンのアドインが無効になります。.NET Framework のインストール後はいつでもこれらのアドインをインストールできます。コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] から、Rose の [変更] オプションを使用することによって実行します。 JDK 1.1.6 Web ブラウザ (たとえば、Web Publisher など) を使用する Rose Add-Ins は、最も一般的なブラウザをサポートします。 <p>Rose J は以下の Java IDE をサポートします。IDE に適した JDK を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Studio 4.0、4.1 Standard、Professional、Enterprise、Expert の各 Edition の VisualCafe IBM VisualAge for Java 3.5、3.5.3、4.0 Professional Edition と Enterprise Edition Forte for Java Community Edition 3.0、4.0 Forte for Java Enterprise Edition 3.0、4.0 Sun One Studio 3、4 Community Edition と Enterprise Edition JBuilder 4.0、5.0、6.0、7.0、8.0 Enterprise、Professional、Foundation の各 Edition |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|-------------------------------|---|
| Rose Data Modeler | <p>Rose Data Modeler は、以下のデータベースのデータ モデルを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM DB2 Universal Database と Client 5.x、6.x、7.x • IBM DB2 OS390 と Client 5.x、6.x • Microsoft SQL Server 6.x、7.x • Oracle サーバーと Client 7.x、8.x、9.x • Sybase System 12 • SQL Server 2000 <p>Rose Data Modeler を使用して Oracle と DB2 データベースのリバース エンジニアリングを実行するには、RDMS クライアントのインストールが必要です。</p> <p>Microsoft .NET Framework (v.1.1 以上) では、Rose Data Modeler と Rose Web Modeler アドインのインストールが必要です。必要な .NET バージョンをインストールしないでインストールの継続を選択すると、これらのアドインはインストールされず、すでにインストールされているバージョンのアドインが無効になります。.NET Framework のインストール後はいつでもこれらのアドインをインストールできます。コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] から、Rose の [変更] オプションを使用することによって実行します。</p> |
| Rose RealTime | <p>最新のサポート情報に関しては、『IBM Rational Rose RealTime Release Notes』を参照してください。</p> |
| Rational Test Agent ソフトウェア | <p>リストに記載されている、すべてのデスクトップ製品でサポートされているプラットフォームだけでなく、次のオペレーティング システムに Test Agents をインストールできます。</p> <p>Windows の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows 2003 Server (Standard と Enterprise) • Microsoft Windows NT 4.0 Server、Service Pack 6a と SRP (Security Rollup Package、Q299444) • Microsoft Windows Millennium Edition • Windows 98 2nd Edition <p>UNIX の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • AIX 4.3、5.1、5.2 • HP-UX 11 (PA-RISC 2.0 32-bit のみ。PA-RISC 1.1 と 64-bit はサポートされません) • Red Hat LINUX 7.1、7.2、7.3、および 8.0 (Personal および Professional LINUX) • RedHat Enterprise LINUX 3 Intel IA-32 • Solaris 2.6、7 ～ 9 (SPARC アーキテクチャのみ) <ul style="list-style-type: none"> • Visual Basic 言語で記述されたテスト スクリプトを実行する場合は、Visual Basic 6 が必要です。 • Java テスト スクリプトを実行する場合は、JDK が必要です。 |
| XDE | <p>最新のサポート情報に関しては、製品 CD に含まれる XDE Developer、XDE Modeler、XDE Developer Plus のリリース ノートを参照してください。</p> |
| XDE Tester | <ul style="list-style-type: none"> • Sun JDK 1.2.2 ～ 1.4x • IBM JRE 1.2.2 ～ 1.4x <p>以下の IDE およびシェルとの統合</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM WebSphere Application Developer 5.0、5.1.1、5.1.2 • IBM WebSphere Studio Workbench 2.0.2、2.1.2、2.1.3 |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|--------------------|---|
| Windows 用 Web ブラウザ | <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5.5 Service Pack 1、2 または 6.0 Service Pack なし、Service Pack 1、2 • Netscape Navigator 4.72 ～ 4.78、7.0 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ClearCase Web と ClearQuest Web は、Windows 98 SE、Windows ME、Windows XP Home Web クライアント上の Internet Explorer と Netscape Navigator 7.0 をサポートします。 • ClearCase Web は、ClearCase がサポートするすべてのデスクトップ オペレーティング システム上の Mozilla 1.5 をサポートします。 • ClearCase Web、ManualTest Web、および XDE Tester は、Netscape Navigator 4.72 から 4.78 をサポートしません。 • New ClearQuest Web ブラウザは、New ClearQuest Web のリリース ノートに一覧表示されているので参照してください。 • ProjectConsole は 7.0 より前の Netscape リリースをサポートしていません。 • RequisiteWeb は Netscape Navigator 4.70 と 4.71 もサポートしています。 • 一部の IBM Rational 製品 (一部の Rose Add-In を含む) では、特定の Microsoft Internet Explorer コンポーネントが必要です。Rose は Internet Explorer の推奨されるバージョンのうちのいずれかでテストされます。Internet Explorer がインストールされていない状態で Rose をインストールしたり実行したりすると、予期しない結果が発生する可能性があります。ただし、標準のブラウザとして Internet Explorer を使用する必要はありません。 • XDE Web Publisher は、Microsoft Internet Explorer 5.5 Service Pack 1、2 または 6.0 Service Pack なし、Service Pack 1 または Netscape Navigator 7.0 をサポートします。 • XDE Tester は、Microsoft Internet Explorer 5.01 Service Pack 1、2 と Netscape Navigator 6.2.1 ～ 6.2.3 をサポートします。 |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|---------------------------------|--|
| Windows 以外のプラットフォーム用 Web クライアント | <p>ClearCase Web</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての AIX (AIX 4.33 を除く) と LINUX (Red Hat、Red Hat Enterprise、SUSE LINUX Enterprise) プラットフォーム上の Mozilla 1.4 と、Mac OS X 10.2、10.3 上の Mozilla 1.5 SUSE LINUX Enterprise 7 上の Netscape Navigator 7.0、S/390 上の 8 ～ 9、zSeries、AMD64 (9 のみ)、EM64T (9 のみ)、AIX 4.3.3、5.1 ～ 5.3、HP-UX 11.x ～ 11.23、Red Hat 2.1、3.0、Red Hat Personal と Professional 7.x ～ 8.0、9.0、Red AMD64 上の Hat Enterprise LINUX 3、EM64T、IA32、S/390、zSeries、Solaris 2.6、7 ～ 9、S/390 zSeries 上の SUSE LINUX Enterprise 8 と 9、AMD64 と EM64T 上の SUSE LINUX Enterprise 9、SGI IRIX 6.5.12 ～ 6.5.24 <p>注: ClearCase Web には J2SE 1.4.1 が必要です。</p> |
| | <p>ManualTest Web</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 2.9 上の Netscape Navigator 4.78 (マニュアル テストのスクリプトを表示できますが、実行して結果をプロジェクトに保存できません。) Red Hat LINUX 7.3 上の Netscape Navigator 4.78 Solaris 2.9 上の Netscape Navigator 7.0 |
| | <p>ProjectConsole</p> <ul style="list-style-type: none"> Red Hat LINUX 8.0、9.0、Solaris 8.0、9.0 上の Netscape Navigator 7.0 Red Hat 8.0、9.0 上の Mozilla 1.6 <p>注: Netscape 7.0 以上と Mozilla 1.6 では 1.4.2_05 バージョンの Sun JRE が必要です。Netscape 7.1 と Mozilla 1.6 には NS610-GCC32 バージョンの libjavapjugin_oji.so が必要です。Netscape 7.0 には NS610 バージョンのプラグインが必要です。</p> |
| | <p>RequisiteWeb と Rational Unified Process Netscape Navigator 4.72 ～ 4.78、Solaris 2.6 上の 7.0、7 ～ 9、HP-UX 11.0 (QPK 1100)、11i v2、11.11 GoldQPK11i、Bundle 11i、11.23</p> |
| | <p>Rose Web Publisher</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 2.6、7 ～ 9、HP-UX 11.x 上の Netscape Navigator 4.7x Red Hat LINUX Personal と Professional 7.1 ～ 7.3 上の Netscape Navigator 4.74 |
| | <p>XDE Web Publisher</p> <ul style="list-style-type: none"> AIX 4.3.3、5.1、5.2、5.3、HP-UX 11.x ～ 11.23、Solaris 2.6、7 ～ 9 上の Netscape Navigator 4.72 ～ 4.78 Red Hat LINUX Personal および Professional 7.1 から 7.3、8.0、SUSE LINUX Enterprise 8.0 上の Netscape Navigator 7.0 |
| Microsoft JVM | <p>Rational セットアップ ウィザードは、このリリース内の製品とともに Microsoft JVM をインストールしません。また、以前にインストールされた Rational 製品から Microsoft JVM を削除することはありません。詳細については、製品固有のリリース ノートを参照してください。</p> |
| 自動ライセンス キー要求 | <p>ライセンス キー ファイルを要求および受信するためのインターネット接続。詳細については、『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』を参照してください。</p> |
| デュアル ブート システム | <p>Rational Suite と Rational Rose では、2 つのオペレーティング システムが同じパーティションにあるデュアル ブート システムをサポートしていません。</p> |
| IBM Rational のマニュアル | <p>オンライン PDF ファイルを読むには、Adobe Acrobat Reader 4.x 以上が必要です。Adobe Acrobat Reader は、http://www.adobe.co.jp から無料でダウンロードできます。</p> |

表 4. デスクトップの要件と推奨事項 (続き)

| 項目 | 要件と推奨事項 |
|--------|---|
| 言語サポート | <p>IBM Rational 製品の英語版は、英語版以外に以下のオペレーティング システムにインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中国語 (簡体字) • 中国語 (繁体字) • オランダ語 • フランス語 • ドイツ語 • ヘブライ語 • イタリア語 • 日本語 • 韓国語 • スウェーデン語 <p>すべての画面、メニュー、コントロール、ウィザード、レポート、ユーザー向けマニュアルは、英語 (US) で記述されています。ただし、Rational Suite v2003.06.10、v2003.06.12、および v2003.06.13 のほとんどは日本語に翻訳されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中国語 (繁体字)、オランダ語、ヘブライ語、韓国語版のオペレーティング システムを使用する場合、データ (パス名など) は英語 (US) または ASCII 文字セットで入力してください。 • 中国語 (簡体字)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、スウェーデン語版のオペレーティング システムを使用する場合、データは英語 (US) またはネイティブ言語の文字セットで入力してください。地域の日付、時間、通貨、数字の表記規則は、入出力ともサポートされています。 • 中国語 (簡体字)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、スウェーデン語版のオペレーティング システムを使用する場合、データは英語 (US) またはネイティブ言語の文字セットで入力してください。地域の日付、時間、通貨、数字の表記規則は、入出力ともサポートされています。 • ClearCase と ClearQuest はスペイン語とブラジル語の文字セットをサポートしています。 • ClearCase は韓国語の文字セットをサポートしています。 |

展開方法の選択

IBM セットアップ ウィザードにはいくつかの展開方法が用意されているので、ユーザーのデスクトップに最適な構成をインストールできます。システム管理者が、ユーザーの作業環境に IBM Rational 製品のインストールを計画している場合には、展開方法を選択する前に管理者に問い合わせてください。管理者は、ユーザーがショートカットをクリックしたりサイレント インストールを実行することで IBM Rational 製品をインストールする場合に使用するリリース領域を既に作成している可能性があります。

表 5 に、各展開方法とその説明を示します。各展開方法に関する指示については、37 ページを参照してください。

表 5. セットアップ ウィザードの展開方法

| タイプ | 説明 |
|----------------------------|--|
| CD イメージからデスクトップ環境へのインストール | この展開方法を使用すると、デスクトップ製品またはクライアント ソフトウェアを IBM Rational Solutions for Windows CD からデスクトップに直接インストールできます。CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入し、セットアップ ウィザードを起動します。 |
| Web ダウンロードからのデスクトップ インストール | この展開方法を使用すると、デスクトップ製品またはクライアント ソフトウェアを Web ダウンロードからデスクトップに直接インストールできます。ダウンロードをコンピュータのローカル ドライブに格納し、セットアップ ウィザードを起動します。 |
| エンタープライズ レベルでの使用向けに展開 | <p>このオプションをオンにすると、管理者はネットワーク リリース領域を作成し、製品のインストールをカスタマイズできます。セットアップ ウィザードで作成したサイト デフォルト ファイルを使用して、設定済みの構成の製品をインストールするか、異なるデフォルト値の設定された製品をインストールできます。</p> <p>エンタープライズ レベルでの使用向けに展開オプションの利点は、複数のクライアントが特定のリリース領域からインストールできることです。サービス リリースが使用可能になった場合、それをサービス リリースをリリース領域に適用できます。クライアントは、更新されたリリース領域から再インストールすることができます。</p> |
| サイレント インストール | この展開方法は、セットアップ ウィザードには表示されません。サイレント インストールを実行する場合、管理者はサイト デフォルト ファイルを作成し、このファイルの設定に基づいたサイレント インストールを特定のコマンドを使用して実行するようユーザーに指示します。サイレント インストールにより、すべてのユーザーのデスクトップに同じ製品、機能、オプションがインストールされます。詳しくは、47 ページの『サイレント インストール コマンドの使用法』を参照してください。 |

IBM Rational Suite のインストールの準備

表 6 のチェックリストを使用して、IBM Rational Suite 製品をデスクトップにインストールします。評価の目的で ClearCase LT と Rational Suite をインストールする場合は、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』の「第 1 章 インストール前に必要な作業」を参照してください。

IBM Rational サーバーをインストールするには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

IBM Rational Suite のインストールに関する最新情報については、『IBM Rational Suite リリース ノート』を参照してください。リリース ノートにアクセスするには、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> を利用します。

リリース ノートは、Rational Suite をインストールしてから表示できます。また、Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[Rational Software] の順にポインタし、[Rational Suite の Readme (日本語)] をクリックしても表示できます。

注: IBM Rational XDE Modeler、XDE Developer、および XDE Tester はアドオン製品です。

表 6. IBM Rational Suite をデスクトップにインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|----------------------------|---|
| インストール前 | |
| | デスクトップで Rational Suite を実行するためのライセンス キーを取得します。3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。 |
| | IBM Rational Suite 製品の製品リストを参照して、各製品のインストール タスクを実行します。 |
| | 18 ページの『IBM Rational ClearCase LT のインストールの準備』 |
| | 20 ページの『IBM Rational ClearQuest のインストールの準備』 |
| | 23 ページの『IBM Rational Process Workbenchのインストールの準備』 |
| | 24 ページの『IBM Rational ProjectConsole のインストールの準備』 |
| | 27 ページの『IBM Rational RequisitePro のインストールの準備』 |
| | 29 ページの『IBM Rational Rose のインストールの準備』 |
| | 30 ページの『IBM Rational テスト製品のインストールの準備』 |
| | IBM Rational Unified Process のみをインストールする場合は、サポートされているブラウザがデスクトップにインストールされていることを確認します。その他の要件はありません。 |
| | 適切な展開方法を管理者に確認します。15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。 |
| IBM Rational Suite のインストール | |
| | この章で説明する展開オプションのいずれかを使用して IBM Rational Suite をインストールするには、37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』を参照してください。 |
| インストール後 | |
| | インストール後のタスクを開始する前に、システム管理者が IBM Rational サーバーをセットアップして起動していることを確認します。ユーザーの IBM Rational Suite に含まれていない機能や管理者が設定していない機能はスキップします。 |
| | 表 7 「ClearCase LT ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 8 「ClearCase Web クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 9 「ClearQuest ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 10 「ClearQuest Web クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 11 「ProjectConsole Web クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |

表 6. IBM Rational Suite をデスクトップにインストールするためのチェックリスト (続き)

| チェック | タスク |
|------|---|
| | 表 12 「RequisitePro ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 13 「RequisitePro Web クライアントをインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 14 「Rose デスクトップにインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |
| | 表 15 「IBM Rational テスト製品をデスクトップにインストールするためのチェックリスト」を参照してください。 |

IBM Rational ClearCase LT のインストールの準備

ここでは、デスクトップに Rational ClearCase LT クライアントをインストールしたり、ClearCase LT Web クライアントを設定するための要件について説明します。ClearCase LT サーバーをインストールするには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

ClearCase LT 機能とその既知の問題に関連する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または <http://www.ibm.com/shop/publications/order> の IBM Publications Center に含まれる『IBM Rational ClearCase LT リリース ノート』を参照してください。これらは、ClearCase LT をインストールしてから表示できます。また、[スタート] メニューからソフトウェアをインストールした後に、[スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearCase LT]、[Rational ClearCase LT readme] をクリックして表示することもできます。

同じデスクトップへの複数のバリエーションのインストール

将来、Rational ClearCase にアップグレードする場合は、同じバージョン 2004.06.13 内で ClearCase LT から ClearCase にアップグレードできます。インストール要件については、Rational ClearCase CD-ROM に収録されている『IBM Rational ClearCase インストールガイド』を参照してください。

表 7 のチェックリストを使用して、ClearCase LT クライアントをデスクトップにインストールします。表 8 のチェックリストを利用して、ClearCase Web クライアントを設定します。

表 7. ClearCase LT ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|---------|--|
| インストール前 | |
| | デスクトップで ClearCase LT を実行するためのライセンス キーを取得します。3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。 |
| | デスクトップで ClearCase LT を実行するためのシステムとソフトウェアの要件を確認します。詳しくは、7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。 |

表 7. ClearCase LT ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト (続き)

| チェック | タスク |
|----------------------|---|
| | ClearCase LT を使用する前に、ClearCase LT サーバーがインストールされ設定されていることを管理者に確認します。Rational Suite の一部として ClearCase LT をインストールする場合は、19 ページの『Rational Suite の一部として ClearCase LT をインストールする』を参照してください。 |
| | デスクトップに対して管理者権限があることを確認します。6 ページの『管理者権限』を参照してください。 |
| | 適切な展開方法を管理者に確認します。15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。 |
| | CLEARCASE_PRIMARY_GROUP 環境変数を設定します。20 ページの『CLEARCASE_PRIMARY_GROUP 環境変数の設定』を参照してください。 |
| ClearCase LT のインストール | |
| | この章で説明する展開オプションのいずれかを使用して ClearCase LT をインストールするには、37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』を参照してください。CD から ClearCase LT をインストールする場合は、管理者に ClearCase LT サーバーの名前を確認する必要があります。リリース領域からインストールする場合は、サイト デフォルト ファイルにサーバー名が既に指定されている可能性があります。 |
| インストール後 | |
| | ビューを作成します。55 ページの『ビューの作成』を参照してください。 |

表 8. ClearCase Web クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|------|--|
| | サポートされている Web ブラウザがインストールされていることを確認してください。7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』および 20 ページの『Internet Explorer のインストール』を参照してください。ClearCase Web を使用するには、クライアントでライセンス キーまたは ClearCase LT ソフトウェアは必要ありません。 |
| | ClearCase LT サーバーがインストールされ設定されているかどうかを管理者に確認します。インストールされ設定されている場合は、55 ページの『ClearCase Web へのログイン』を参照してください。 |

Rational Suite の一部として ClearCase LT をインストールする

ClearCase LT を含む IBM Rational Suite をインストールする場合は、管理者が ClearCase LT サーバーをインストールして設定してからでないと、ユーザーは ClearCase LT クライアントを使用できません。クライアント デスクトップに IBM Rational Suite 製品をインストールすると、ClearCase LT クライアント ソフトウェアはデフォルトで、Rational Suite の一部としてインストールされます。ClearCase LT サーバー ソフトウェアは、Rational Suite と共にインストールされません。

注: 同じコンピュータにインストールする場合は ClearCase LT サーバーをインストールする前に Rational Suite をインストールしないでください。(ClearCase LT を評価する場合を除き、同じコンピュータにすべての ClearCase ソフトウェアをインストールすることはお勧めできません。)

Internet Explorer のインストール

ClearCase LT と共にインストールされる一部のプログラムは、Microsoft® Internet Explorer のコンポーネントに依存しているため、Internet Explorer がインストールされていない場合には動作しません。必要なバージョンについては、7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。Internet Explorer は、Microsoft Web サイト www.microsoft.com/japan/ie からダウンロードできます。詳細については、『IBM Rational ClearCase LT リリース ノート』を参照してください。

CLEARCASE_PRIMARY_GROUP 環境変数の設定

ClearCase LT アクセス コントロールは、ClearCase データに対するユーザーのアクセス権を判定するときに、ドメイン グループのメンバーシップ情報を考慮します。Windows では、ドメイン アカウントにログオンするユーザーに Windows ドメイン アカウント管理ツールが指定するプライマリ グループが割り当てられないことがあります。

正しく割り当てられるようにするには、正しいプライマリ グループを参照するようにユーザー環境変数 CLEARCASE_PRIMARY_GROUP を設定します。この変数の値は、そのユーザーをメンバーとして含む既存のドメイン グループの名前にする必要があります。すべての ClearCase ユーザーは、このグループのメンバーにする必要があります。このユーザー環境変数 (システム環境変数ではない) をすべての ClearCase コンピュータに設定する必要があります。Windows システムでは、[コントロール パネル] の [システム] を使用して CLEARCASE_PRIMARY_GROUP の値を設定します。

CLEARCASE_PRIMARY_GROUP および ClearCase アクセス コントロールの詳細については、『IBM Rational ClearCase 管理ガイド』を参照してください。

IBM Rational ClearQuest のインストールの準備

ここでは、デスクトップに ClearQuest クライアントをインストールするための要件について説明します。ClearQuest と ClearQuest MultiSite のサーバーと管理ツールをインストールする方法については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ショーガイド』を参照してください。

ClearQuest 機能とその既知の問題に関連する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または <http://www.ibm.com/shop/publications/order> の IBM Publications Center に含まれる『IBM Rational ClearQuest リリース ノート』を参照してください。これらは、ClearQuest をインストールしてから表示できます。また、ソフトウェアをインストールした後に、[スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest]、[Rational ClearQuest readme] をクリックして表示することもできます。

表 9 のチェックリストを使用して、ClearQuest クライアント ソフトウェアをインストールします。表 10 のチェックリストを使用して、ClearQuest Web クライアントをデスクトップでセットアップします。

表 9. ClearQuest ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|--------------------|--|
| インストール前 | |
| | デスクトップで ClearQuest クライアントを実行するためのライセンス キーを取得します。3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。 |
| | デスクトップに対して管理者権限があることを確認します。6 ページの『管理者権限』を参照してください。 |
| | 適切な展開方法を管理者に確認します。15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。 |
| | ClearQuest ネイティブ クライアントが、DB2 [®] が稼動する ClearQuest データベースにアクセスする場合は、デスクトップ コンピュータに DB2 クライアントをインストールします。23 ページの『DB2 クライアントのインストール』を参照してください。 |
| | <p>デスクトップで ClearQuest を実行するためのシステムとソフトウェアの要件を確認します。詳細については、以下の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』 • 22 ページの『互換性に関する問題』 • 22 ページの『VS.NET との統合の設定』 |
| ClearQuest のインストール | |
| | この章で説明する展開オプションのいずれかを使用して ClearQuest をインストールするには、37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』を参照してください。 |
| インストール後 | |
| | ClearQuest ネイティブ クライアントをセットアップする前に、ClearQuest データベース サーバーがインストールされ設定されていることを管理者に確認します。 |
| | DB2 を ClearQuest データベースとして使用している場合は、データベース別名を作成します。56 ページの『DB2 データベース 別名の作成』を参照してください。 |
| | ClearQuest データベースに接続します。57 ページの『ClearQuest データベースへの接続』を参照してください。 |
| | ClearQuest にログインします。60 ページの『ClearQuest へのログイン』を参照してください。 |
| | CD から ClearQuest クライアントをインストールしたときに電子メールによる通知を有効にしなかった場合、または管理者がサイト デフォルト ファイルに情報を入力しなかった場合は、電子メールによる通知を有効にします。61 ページの『電子メール通知を受信するための ClearQuest クライアントの設定』および 61 ページの『電子メール通知を送信するための ClearQuest クライアントの設定』を参照してください。 |

表 10. ClearQuest Web クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|------|---|
| | このチェックリストの残りの部分を読む前に、ClearQuest Web サーバーがインストールされて設定済みであるかどうかを管理者に問い合わせてください。 New ClearQuest Web について詳しくは、『IBM Rational New ClearQuest Web インストレーション ガイド』を参照してください。 |
| | サポートされている Web ブラウザのいずれかをインストールします。7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』および 23 ページの『Web ブラウザのインストール』を参照してください。ClearQuest Web を使用するために、デスクトップに ClearQuest ソフトウェアまたはライセンス キーをインストールする必要はありません。 |
| | ブラウザを設定します。詳しくは、『IBM Rational New ClearQuest Web インストレーション ガイド』を参照してください。 |
| | ClearQuest Web にログインします。詳しくは、『IBM Rational New ClearQuest Web インストレーション ガイド』を参照してください。 |
| | 電子メール通知を受信するよう New ClearQuest クライアントを設定します。 New ClearQuest Web について詳しくは、『IBM Rational New ClearQuest Web インストレーション ガイド』を参照してください。 |

互換性に関する問題

IBM Rational 製品との互換性

このリリースは、Rational ClearQuest 2003.06.10 とその他すべての Rational Suite バージョン 2003 製品と互換性があります。以前のリリースの ClearQuest または Rational Suite とは互換性がありません。

VS.NET との統合の設定

ClearCase LT が既にインストールされている場合、ClearQuest/VS.Net との統合はインストール時に自動的に設定されます。ClearQuest のインストール後、VS.Net を起動すると、ワークスペース ツリーとアクティビティ グリッドのコントロールが ClearQuest との統合をサポートします。

Windows Terminal Server 環境での Rational ソフトウェアのインストール

サポートされているプラットフォームに従って、Windows Terminal Server コンソールに IBM Rational ソフトウェアをインストールし、実行することができます。

注: 初めに、MDAC 2.7 と Jet 4.0 Service Pack 6 の両方をインストールしておく必要があります。これらのコンポーネントが両方ともインストールされていないと、次のエラーが発生します。「この製品をインストールするには、まず Microsoft Data Access Components (MDAC) のバージョン 2.7 と Open Database Connectivity (ODBC) ドライバを Microsoft Knowledge Base Article 216149 で説明されている手順に従ってインストールする必要があります」

MDAC 2.7 と Jet 4.0 Service Pack 6 の両方をインストールして、Windows Terminal Server 環境へのインストールを続行すると、次のエラーが発生します。

「この製品を、サポートされていないオペレーティング システムにインストールしようとしています」サポートされているオペレーティング システムにインストールしてください。IBM Rational 製品の リリース ノートを参照して、サポートされているオペレーティング システムとサービス パックのリストを確認してください。この警告は無視して、インストール作業を続けます。Terminal Server クライアントで IBM Rational 製品を使用する場合は、コンソール システムでフローティング ライセンスを使用するように構成する必要があります。

Crystal Reports の各種バージョンの共存

Crystal Reports バージョン 8.5 で作成されたレポートは、ClearQuest Windows クライアント バージョン 2003.06.10 以上で実行、表示および印刷できます。ただし、Crystal Reports バージョン 10 で作成されたレポートは、ClearQuest バージョン 2003.06.10 (つまり、Crystal Reports 8.5 ソフトウェアがインストールされたクライアント) で作成された ClearQuest Windows クライアントでは実行または表示はできません。

つまり、新規レポートが Crystal Reports バージョン 10.0 を使用して作成される場合、前の ClearQuest Windows クライアントを ClearQuest バージョン 2003.06.13 Windows クライアントにアップグレードする必要があります。Crystal Reports Developer's Edition バージョン 10 のソフトウェアを入手するには、<http://japan.businessobjects.com/> から Business Objects に問い合わせてください。

DB2 クライアントのインストール

ClearQuest クライアントのユーザーは、ClearQuest の DB2 データベースにアクセスするために、コンピュータに適切な DB2 クライアント ソフトウェアをインストールする必要があります。DB2 クライアント ソフトウェアをインストールする場合は、IBM DB2 データベースのマニュアルを参照してください。

Web ブラウザのインストール

ClearQuest Web 機能を使用する場合は、クライアント コンピュータに適切なバージョンのブラウザがインストールされていることを確認してください。7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。

New ClearQuest Web の Web ブラウザの設定

New ClearQuest Web クライアントに ClearQuest Web のフル機能を設定するには、『IBM Rational New ClearQuest Web インストレーション ガイド』を参照してください。New ClearQuest Web の Web ブラウザが正しく設定されていることを確認してください。

IBM Rational Process Workbenchのインストールの準備

IBM Rational Process Workbench (RPW) は、IBM Rational Unified Process (RUP®) のアドオン製品で、RUP のプラグインを作成するために使用されます。これらは、ガイダンス、テンプレート、サンプルなどのプロセス アセットを別のプロジェクトで再使用できるようパッケージ化するのに使用されます。RPW にはいくつかのコンポーネントがあります。

- IBM RUP Organizer はプロセス コンテンツ管理ツールで、再使用可能なプロセス アセットからなる軽量型プラグインを簡単に作成し、プラグインと強力な構造の RUP プロセス定義とを関連付けることができます。さらに高度なモデル化されたプラグインと組み合わせて使用することもできます。RUP Organizer は RPW のインストール時にインストールされるようデフォルトで設定されています。
- IBM RUP Modeler は SPEM 対応のプロセス モデリング ツールで、RUP でさらに高度なプロセス定義を実行するために使用されます。このツールを使用して、新しい役割、アクティビティ、成果物を RUP に追加するためのプラグインをモデル化します。このツールは IBM Rational XDE Professional Java™ Platform Edition のアドインであるため、RUP Modeler を使用するには XDE のインストールと設定が必要です。RUP Modeler はデフォルトではインストールされないため、カスタム インストールで選択する必要があります。
- RUP サポート用のプロセス モデルとコンテンツ ライブラリ、プロセス エンジニアリング プロセスと各種プラグイン。これらはプラグインの参照用と組織の特定ニーズに合わせて変更するプラグイン コンテンツのソースとして使用されません。

IBM Rational Process Workbench は、IBM Rational Developer Network (<http://www-136.ibm.com/developerworks/rational/products/rup/>) の RUP Plug-in Exchange からダウンロードできます。ただし、英語のみのご利用となります。インストールの手順については、このサイトを参照してください。

IBM Rational Process WorkBench 機能とその既知の問題に関する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> に含まれる『IBM Rational Process WorkBench リリース ノート』を参照してください。リリース ノートは、製品のインストール処理の最後に表示されます。

IBM Rational ProjectConsole のインストールの準備

ここでは、デスクトップで ProjectConsole クライアントをセットアップする方法と ProjectConsole Template Builder をインストールする方法について説明します。この項は、Web ブラウザから ProjectConsole Web サイトにアクセスして、最新のプロジェクト情報を表示するチーム メンバーを対象にしています。次の ProjectConsole コンポーネントのインストールと設定を行う場合は、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

- Web サーバー コンポーネント
- レポート サーバーと収集エージェント
- リポジトリ

ProjectConsole Suite の機能とその既知の問題に関する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> に含まれる『IBM Rational Suite リリース ノート』を参照してください。これらは、ProjectConsole をインストールしてから表示できます。また、ソフトウェアをインストールした後に、[スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational Suite]、[Rational Suite readme] をクリックして表示することもできます。

ProjectConsole Web クライアントと Template Builder のセットアップ

表 11 のチェックリストを使用して、ProjectConsole Web クライアントと Project Console Template Builder をデスクトップでセットアップします。手順については、チェックリストの後の項を参照してください。ProjectConsole Web クライアントには、インストール後に必要なタスクはありません。

表 11. ProjectConsole クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|------|---|
| | ProjectConsole Template Builder のシステムとソフトウェアの要件と、ProjectConsole Web クライアントを実行するために必要な、サポートされている Web ブラウザを確認します。7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。 ProjectConsole Template Builder ソフトウェアは、IBM Rational Suite のインストールに含まれています。 |
| | このチェックリストに従って操作を続ける前に、ProjectConsole Web サイトが動作していることを管理者に確認します。 |
| | ブラウザの最小スクリーン領域を設定します。 |
| | Web ブラウザで cookie を有効にします。 |
| | ProjectConsole Web サイトにログインします。 |
| | Java プラグインをインストールします (最初のインストール時のみ)。 |
| | デスクトップに Template Builder ソフトウェアをインストールするかどうかを決定します。26 ページの『ProjectConsole Template Builder のインストール』を参照してください。 |

モニターのスクリーン領域の設定

ProjectConsole Web サイトを使用するには、モニターのスクリーン領域を 1024 x 768 ピクセル以上に設定します。それ以外の場合は、ProjectConsole の重要なコンポーネントにアクセスできないことがあります。

cookie の有効化

ProjectConsole Web サイトを使用するには、Web ブラウザで cookie を有効にします。cookie を有効にする方法については、Web ブラウザのオンライン ヘルプを参照してください。

ProjectConsole Web サイトへのログイン

ProjectConsole Web サイトに初めてログインするには

1. ProjectConsole Web サーバー名を管理者に問い合わせます。
2. Web ブラウザを起動し、次の URL を入力します。

`http://<server name>/ProjectConsole`

server name は、ProjectConsole サーバーの名前です。

3. [Enter] を押します。

ProjectConsole ログオン ページが表示されます。

4. [Username] ボックスに「**admin**」と入力します。
5. [Password] ボックスは空のままにしておきます。
6. [ログオン] をクリックします。

Java プラグインのインストール

ProjectConsole Web サイトに初めてログインすると、必要な Java プラグインがコンピュータにインストールされていない場合、インストールするよう要求されます。

Java プラグインをインストールするには

- プラグインをインストールする手順に従います。

Java プラグインをインストールした後、次の操作を行います。

- クライアント コンピュータで Windows NT[®] が実行されている場合は、システムを再起動します。
- クライアント コンピュータで Windows 2000 または XP が実行されている場合は、Designer (または Dashboard) ウィンドウを終了して、ProjectConsole ツールバーの [Designer] (または [Dashboard]) を再度クリックします。

注: ProjectConsole Dashboard ツールを Web サイトで初めて起動すると、Java クラスの一部をダウンロードするよう要求されます。クラスをダウンロードする手順に従ってください。

ProjectConsole Template Builder のインストール

ProjectConsole レポート テンプレートの作成または変更を行うコンピュータに Template Builder をインストールすることができます。Template Builder で作成したテンプレートをテストするには、Template Builder コンピュータにソースとなる単体製品をインストールします。

Template Builder テンプレートを使用してレポートを生成する場合は、ProjectConsole Web サーバーまたはレポート サーバーと収集エージェント コンピュータに Template Builder をインストールする必要はありません。

Template Builder を使用してデスクトップ クライアントでテンプレートを作成する場合は、サーバー コンピュータの ProjectConsole のインストール ディレクトリにある Templates フォルダにテンプレートを保存します。

注: デスクトップに ProjectConsole レポート サーバーと収集エージェント ソフトウェアをインストールしている場合は、ProjectConsole サーバーにテンプレートを保存する必要はありません。レポート サーバーと収集エージェントをデスクトップにインストールするには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』を参照してください。

IBM Rational RequisitePro のインストールの準備

ここでは、RequisitePro クライアントをインストールしたり、RequisiteWeb を介して RequisitePro データベースにアクセスする方法について説明します。最適なオプションについては、システム管理者にご相談ください。RequisitePro クライアントをインストールした場合には、RequisiteWeb も使用できます。RequisitePro データベース サーバーをインストールするには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』を参照してください。

RequisitePro 機能とその既知の問題に関連する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> に含まれる『IBM Rational RequisitePro リリース ノート』を参照してください。リリース ノートは、インストール処理の最後に表示され、RequisitePro を初めて起動した場合に表示される [Let's Go Rational RequisitePro] アプリケーションの中のリンクからも参照できます。また、[スタート] メニューから、[スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational RequisitePro]、[Rational RequisitePro readme] の順にクリックして、リリース ノートを表示することもできます。

RequisitePro クライアントのセットアップ

表 12 のチェックリストを使用して、RequisitePro クライアントをデスクトップで設定します。

表 12. RequisitePro ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|----------------------|--|
| インストール前 | |
| | デスクトップで RequisitePro を実行するためのライセンス キーを取得します。詳しくは、3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。 |
| | RequisitePro ネイティブ クライアントが、そのネイティブ クライアント上で Oracle または DB2 クライアント ソフトウェアを実行する RequisitePro データベースにアクセスしていることを確認してください。28 ページの『Oracle クライアントのインストール』および 28 ページの『DB2 クライアントのインストール』を参照してください。 注: RequisitePro のインストール後にデータベースのエイリアスを作成できます。 |
| | デスクトップに対して管理者権限があることを確認します。6 ページの『管理者権限』を参照してください。 |
| | 適切な展開方法を管理者に確認します。15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。 |
| | デスクトップで RequisitePro を実行するためのシステムとソフトウェアの要件を確認します。7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。 |
| RequisitePro のインストール | |
| | この章で説明する展開オプションのいずれかを使用して RequisitePro をインストールするには、37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』を参照してください。 |
| インストール後 | |

表 12. *RequisitePro* ネイティブ クライアントをインストールするためのチェックリスト (続き)

| チェック | タスク |
|------|---|
| | <i>RequisitePro</i> データベースへの接続方法については、63 ページの『 <i>IBM Rational RequisitePro</i> のインストール後に必要な作業』を参照してください。 |

Oracle クライアントのインストール

Oracle *RequisitePro* データベースにアクセスするには、適切なクライアント ソフトウェアをデスクトップにインストールします。Oracle クライアント ソフトウェアをインストールするには、Oracle データベースのマニュアルに従ってください。

DB2 クライアントのインストール

DB2 Connect Personal Edition を使用して、デスクトップ クライアント DB2 別名を作成し、DB2 データベース サーバーにアクセスします。ほかのユーザーとプロジェクトを共有する場合は、必ず、データベース管理者またはプロジェクト管理者が決定した一貫性のあるデータベース別名を使用してください。

注: [このデータベースを ODBC に登録] チェック ボックスがオフになっていることを確認してください。

RequisiteWeb クライアントのセットアップ

表 13 のチェックリストを使用して、*RequisiteWeb* クライアントをデスクトップで設定します。

RequisiteWeb を使用する際、以下の項目は必要ありません。

- デスクトップ上の *RequisitePro* ソフトウェア
- Oracle データベースを使用している場合は、デスクトップ上の Oracle クライアント ソフトウェア
- DB2 データベースを使用している場合は、デスクトップ上の DB2 クライアント ソフトウェア
- デスクトップ上のライセンス キーまたは *IBM Rational* ライセンス サーバーの指定

表 13. *RequisitePro Web* クライアントをインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|------|---|
| | このチェックリストに従って操作を続ける前に、 <i>RequisiteWeb</i> サーバーが動作していることを管理者に確認します。 |
| | <i>RequisiteWeb</i> を使用する場合は、サポートされている Web ブラウザのいずれかをデスクトップにインストールします。サポートされている Web ブラウザについては、7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。 |
| | <i>RequisiteWeb</i> が適切に動作するために、使用するブラウザで Cookie が有効になるように設定します。 |
| | <i>RequisiteWeb</i> にログオンします。68 ページの『 <i>RequisiteWeb</i> へのログイン』を参照してください。 |

IBM Rational Rose のインストールの準備

ここでは、デスクトップに IBM Rational Rose をインストールする方法について説明します。

Rose の機能とその既知の問題に関する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center:
<http://www.ibm.com/shop/publications/order> に含まれる『IBM Rational Rose Release Notes』を参照してください。このリリース ノートは Rose のインストール処理の最後に表示されます。また、[スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational Rose]、[Rational Rose readme] をクリックしても表示できます。

同じデスクトップへのバリエーションのインストール

1 つの Windows デスクトップに Rose の複数のバリエーションをインストールした場合、最後にインストールしたバリエーションのみを実行できます。たとえば、Rose Modeler Edition、Rose Professional J Edition の順にインストールした場合は、Rose Professional J バリエーションのみを実行できます。

デスクトップでの Rose のセットアップ

表 14 のチェックリストを使用して、Rational Rose をデスクトップにインストールします。インストール後の手順はありません。

表 14. Rose をデスクトップにインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|--------------|--|
| インストール前 | |
| | デスクトップで Rose を実行するためのライセンス キーを取得します。詳しくは、3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。 |
| | デスクトップに対して管理者権限があることを確認します。詳しくは、6 ページの『管理者権限』を参照してください。 |
| | 適切な展開方法を管理者に確認します。15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。 |
| | デスクトップで Rose を実行するためのシステムとソフトウェアの要件を確認します。7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。 |
| | Rose を IBM Rational Suite の一部として Microsoft Windows NT 4.0 SP6a または Windows 2000 にインストールする場合、Rational¥Common ディレクトリをユーザー パスに追加するまで Rose は実行できません。この問題が発生した場合は、30 ページの『ユーザー パスへの IBM Rational ディレクトリの追加』を参照してください。 |
| Rose のインストール | |
| | この章で説明する展開オプションのいずれかを使用して Rose をインストールするには、37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』を参照してください。 |

ユーザー パスへの IBM Rational ディレクトリの追加

Rose を Microsoft Windows NT 4.0 SP6a または Windows 2000 にインストールする場合、Rational¥Common ディレクトリをユーザー パスに追加するまで Rose は実行できません。次の手順に従って、ディレクトリをユーザー パスに追加します。

1. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[コントロール パネル] をクリックします。
2. [システム] アイコンをダブルクリックし、[環境] タブをクリックします。
3. ダイアログ ボックスの [ユーザー環境変数] セクションの [変数] の [Path] をクリックします。
4. 既存のパスの先頭に Rational 共通パス (通常は C:¥Program Files¥Rational¥Common) を挿入して、[設定] をクリックします。
5. [OK] をクリックしてパスを追加し、ダイアログ ボックスを閉じます。

IBM Rational テスト製品のインストールの準備

表 15 のチェックリストを使用して、IBM Rational テスト製品をデスクトップにインストールして設定します。Test データストアと ManualTest Web サーバーを設定するには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』を参照してください。

Rose の機能とその既知の問題に関する最新情報については、Rational Solutions for Windows Online Documentation CD または、IBM Publications Center: <http://www.ibm.com/shop/publications/order> に含まれる『IBM Rational テスト製品リリース ノート』を参照してください。このリリース ノートは製品のインストール処理の最後に表示されます。また、[スタート] メニューから、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational <testing product>]、[Rational <testing product> readme] の順にクリックして表示することもできます。

表 15. IBM Rational テスト製品をデスクトップにインストールするためのチェックリスト

| チェック | タスク |
|---------|---|
| インストール前 | |
| | Rational テスト製品を実行するためのライセンス キーを取得します。詳しくは、3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。 |
| | デスクトップに対して管理者権限があることを確認します。6 ページの『管理者権限』を参照してください。 |
| | この項の Rational テスト製品に関する説明を読み、自分の製品のシステムとソフトウェアの要件を 7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』で確認します。 |
| | 適切な展開方法を管理者に確認します。15 ページの『展開方法の選択』を参照してください。 |
| | SQA Suite 6.x がコンピュータにインストールされている場合、削除する必要はありません。最新バージョンの IBM Rational テスト製品と SQA Suite 6.x は、別々のディレクトリにインストールされるので、共存できます。 |
| | すべてのコンピュータに TCP/IP がインストールされていることを確認します。インストールしていないネットワーク ソフトウェアへのアップグレードをすべてインストールします。 |

表 15. IBM Rational テスト製品をデスクトップにインストールするためのチェックリスト
(続き)

| チェック | タスク |
|---------------------------|--|
| | ネットワーク内のコンピュータが互いに通信していることを確認します。(問題がある場合は、ネットワーク管理者に連絡してください)。 |
| | 各コンピュータがテストで果たす役割、つまりローカル コンピュータか Agent コンピュータかを決定します。詳しくは、33 ページの『IBM Rational Test Agent について』を参照してください。 プロトコルを使用するテスト スクリプトを生成するには、IBM Rational テスト製品をインストールする前に、ローカル コンピュータに TUXEDO 6 クライアント ソフトウェアをインストールします。 |
| | ローカル コンピュータまたは Agent コンピュータでテスト スクリプトを再生する場合は、適切なデータベース クライアント ソフトウェアをインストールします。34 ページの『パフォーマンス テスト用のクライアント ソフトウェアのインストール』を参照してください。 |
| | Robot を使用して .NET アプリケーションをテストするには、テスト コンピュータに .NET フレームワークをインストールした後、Robot をインストールします。 インストール中、Robot は一部のアセンブリをグローバル アセンブリ キャッシュにインストールする必要があります。.NET フレームワークをインストールする前に Robot をインストールすると、この手順はスキップされます。その場合には、Robot を再インストールするか、Dotnetspy.dll と interop.mscooreee.dll をグローバル アセンブリ キャッシュにコピーする必要があります。 |
| IBM Rational テスト製品のインストール | |
| | この章で説明する展開オプションのいずれかを使用して Rational テスト製品をインストールするには、37 ページの『第 2 章 IBM Rational 製品のインストール』を参照してください。 |
| インストール後 | |
| | 使用するネットワークの種類を、イーサネットまたはトークンリングのいずれかに決定します。この情報は、IBM Rational Test ネットワーク ドライバをインストールする場合に必要になります。69 ページの『ネットワーク ドライバのインストールと削除』を参照してください。 |
| | Rational Test Agent をインストールします。71 ページの『IBM Rational Test Agents のインストール』を参照してください。 |
| | IBM Rational ManualTest Web execution を使用する場合は、73 ページの『ManualTest Web へのアクセス』を参照してください。Web サーバーをセットアップする手順については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』を参照してください。 |
| | サンプル アプレットをインストールします。76 ページの『サンプル アプレットのインストール』を参照してください。 |
| | テスト アセットと成果物の保存場所を管理者に問い合わせます。33 ページの『IBM Rational Test データストアについて』を参照してください。 |

IBM Rational TestManager について

TestManager を使用すると、計画、設計、開発、実行、分析のすべてのテスト作業を一括管理できます。TestManager ではテストとその他の開発活動を連携し、テストアセットとツールを統合して、プロジェクトの正確な状態を把握するためのポイントを明らかにします。TestManager には、プロジェクト管理ツールである Rational Administrator が含まれています。Rational Administrator の使用方法の詳細については、『Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

IBM Rational ManualTest Web execution について

手動テスト スクリプトは、テスト担当者が実行するテスト命令のセットです。手動テスト スクリプトは、IBM Rational ManualTest を使用して入力されたステップと検証ポイントで構成されます。手動テスト スクリプトを作成し、テスト ケース実装を作成してテスト ケースと関連付けた後は、Web ブラウザからテスト ケースを実行できます。手動テスト スクリプトの作成とテスト ケース実装の詳細については、『IBM Rational TestManager User Manual』を参照してください。

注: 手動テスト スクリプト実装を持つテスト ケースは、Web ブラウザからのみ実行できます。自動テスト スクリプト実装を持つテスト ケースは、Web ブラウザから実行できません。テスト ケースが手動テスト スクリプト実装と自動テスト スクリプト実装の両方を持っている場合は、手動テスト スクリプトのみが Web ブラウザから実行されます。

手動テスト スクリプトに関連付けられたテスト ケースを実行するには、ユーザーまたは管理者は、ManualTest Web Execution ソフトウェアと共に Web サーバーをインストールして設定し、Rational プロジェクトにアクセスするように各デスクトップの Web ブラウザを設定する必要があります。Web サーバーを設定するには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』の「第 1 章 インストール前に必要な作業」と「インストール後に必要な作業: テスト データストアと Test Web サーバーの設定」の章を参照してください。

IBM Rational Robot について

Robot をインストールすると、以下のすべての製品がインストールされます。

- IBM Rational TestManager: 前の項を参照してください。
- IBM Rational Robot: 使用している Windows アプリケーションの機能テストやパフォーマンス テストを開発して実行するために使用します。詳細については、『IBM Rational Robot User Manual』を参照してください。
- IBM Rational Administrator: Rational プロジェクトを管理するために使用します。詳細については、『IBM Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。
- IBM Rational SiteCheck®: インターネットとイントラネット Web サイトを管理するために使用します。詳細については、Rational SiteCheck のヘルプを参照してください。
- Comparators: Object Properties、Text、Grid、Image Comparators が含まれています。テスト スクリプトの再生結果を表示して分析するために使用します。詳細については、『IBM Rational TestManager User Manual』とコンパレータのヘルプを参照してください。

Robot を使用して .NET アプリケーションをテストするには、テスト コンピュータに .NET フレームワークをインストールした後、Robot をインストールします。

IBM Rational TeamTest について

TeamTest をインストールする場合は、インストール CD-ROM で入手可能なコンポーネントの一部またはすべてをインストールできます。TeamTest には以下のコンポーネントが含まれています。

- IBM Rational TestManager と IBM Rational Robot: 前の項を参照してください。
- IBM Rational ClearQuest: テスト プロジェクトの障害を追跡するために使用します。Robotは ClearQuest をインストールします。このコンポーネントには、特別に設計された障害フォームが含まれています。
- IBM Rational Administrator は Robot と TestManager に含まれています。Rational Administrator の詳細については、『IBM Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

IBM Rational Test データストアについて

Rational Test データストアには、ユーザー、グループ、コンピュータに関する情報だけでなく、スイート、テスト計画、テスト ケース、レポート、テスト ログ、スクリプトなどの機能やパフォーマンスに関するテスト アセットと成果物が格納されます。Rational Administrator から新しい Test データストアを作成する場合には、Microsoft Access または Sybase SQL Anywhere のどちらのデータベース エンジンを使用するかを選択できます。詳細については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

Rational Administrator は、プロジェクトとデータストアの管理ツールで、RequisitePro、Robot、SQL Anywhere、TestManager、Rational Suite 製品に含まれています。Rational Administrator の詳細については、『IBM Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

IBM Rational QualityArchitect について

QualityArchitect は、Enterprise JavaBeans™ や COM などのミドルウェア コンポーネントをテストするための統合ツールで構成されます。QualityArchitect は、Rose、TestManager、Rational Administrator、RequisitePro と完全に統合されています。QualityArchitect を使用すると、コンポーネントを Rose にリバース エンジニアリングしたり Java、パッケージ、クラス、メソッドを RequisitePro の要求にマッピングしたり、Rose からテスト スクリプトを生成したり、Java 開発環境からテスト スクリプトを編集して実行することができます。

IBM Rational Test Agent について

ローカル コンピュータに IBM Rational テスト ソフトウェアをインストールしてライセンス キーを入力した後は、ほかのコンピュータに Test Agent をインストールすることができます。Agent コンピュータを使用して、以下の処理を行うことができます。

- パフォーマンス テストを実行する場合に、サーバーに作業負荷を追加します。

- 複数のコンピュータでテスト スクリプトを実行します。機能テストを実行する場合は、すべてのテスト スクリプトをローカル コンピュータで実行する代わりに、次に使用可能な Agent コンピュータでテスト スクリプトを実行することで、時間を節約できます。
- 構成をテストします。さまざまなハードウェアとソフトウェアの構成をテストする場合は、これらの構成を使用してセットアップされた、特定の Agent コンピュータでテスト スクリプトを実行できます。

Windows コンピュータと UNIX® コンピュータへの Test Agent ソフトウェアのインストールの詳細については、71 ページの『IBM Rational Test Agents のインストール』を参照してください。

パフォーマンス テスト用のクライアント ソフトウェアのインストール

Oracle、Sybase、SQL Server データベースをローカル コンピュータまたは Agent コンピュータでテストするテスト スクリプトを再生するには、適切なデータベースクライアント ソフトウェアをインストールします。

Oracle クライアント ソフトウェア

Oracle データベースをローカル コンピュータまたは Agent コンピュータでテストするテスト スクリプトを再生するには、Oracle クライアント ソフトウェアをインストールします。

Sybase クライアント ソフトウェア

Sybase データベースをテストするテスト スクリプトを生成するには、ローカル コンピュータ (Windows 2000 Server または Windows NT NT 4 Server) に Sybase 11.1 NT クライアント ソフトウェアをインストールします。

Sybase データベースをテストするテスト スクリプトを再生するには、各 Agent コンピュータに適切なソフトウェアをインストールします。

- UNIX Agent の場合は、Sybase 11.1 UNIX クライアント ソフトウェアをインストールします。
- NT Agent の場合は、Sybase 11.1 NT クライアント ソフトウェアをインストールします。

SQL Server クライアント ソフトウェア

SQL Server データベースをテストするテスト スクリプトを生成するには、ローカル コンピュータに SQL Server 6.5 以上の NT クライアント ソフトウェアをインストールする必要があります。

注: クライアントで作成したデータストアは、SQL ソフトウェアと Windows NT 4 または Windows 2000 オペレーティング システムがインストールされた別のサーバーに保存できます。

Agent に対して SQL Server テスト スクリプトを再生するには、次のように各 Agent コンピュータに適切なソフトウェアをインストールする必要があります。

- UNIX Agent の場合は、Sybase 11.1 UNIX クライアント ソフトウェアをインストールします (互換性に制限があります)。

- NT Agent の場合は、SQL Server 6.5 以上の NT クライアント ソフトウェアをインストールします。

TUXEDO プロトコル ソフトウェア

プロトコルを使用するテスト スクリプトを生成するには、IBM Rational テスト製品をインストールする前に、ローカル コンピュータに TUXEDO 6 クライアント ソフトウェアをインストールします。

SAP プロトコル ソフトウェア

SAP プロトコルを使用するテスト スクリプトを生成するには、通常 SAPGUI と呼ばれる SAP フロント エンド ソフトウェアをローカル コンピュータにインストールする必要があります。

DCOM/COM+ プロトコル ソフトウェア

DCOM/COM+ プロトコルを使用するテスト スクリプトを Agent コンピュータで再生する前に、ローカル コンピュータに記録されたクライアント アプリケーションも Agent に対して実行されることを確認します。これにより、必要な COM オブジェクトが存在して、Agent に対して正しく登録されます。

WebLogic/EJB プロトコル ソフトウェア

WebLogic/EJB サーバーをテストするテスト スクリプトを生成するには、適切なローカル コンピュータに WebLogic をインストールする必要があります。

WebLogic/EJB サーバーをテストするテスト スクリプトを再生するには、適切なローカル コンピュータまたは Agent コンピュータに WebLogic をインストールする必要があります。

IBM Rational Test Enablers について

Test Enablers は以下のコンポーネントで構成されます。Test Enablers の詳細については、『IBM Rational Robot User Manual』を参照してください。

IBM Rational ActiveX Test Control: Robot を使用して、テスト対象のアプリケーション内の ActiveX コントロールのプロパティをテストする場合にインストールします。

注: PowerBuilder、Oracle Forms、Visual Basic、Delphi、Java、HTML 以外の開発環境を使用して、ActiveX コントロールのプロパティをテストする場合は、アプリケーションの各 OLE コンテナに Rational ActiveX Test Control を手動で追加する必要があります。手順については、開発環境に付属しているマニュアルを参照してください。

ActiveX Test Control は OLE コンテナと Robot 間の通信を提供します。ActiveX Test Control は非割り込みコントロールであり、アプリケーションの動作やパフォーマンスに影響を与えません。実行時には Rational ActiveX Test Control は表示されません。

IBM Rational Test Java Enabler: ブラウザで実行される Java アプレットや単独使用 Java アプリケーションをテストするために必要です。この Enabler は、Robot がサポートする Web ブラウザと Sun JDK インストールがあるかどうかについてハード

ディスクをスキャンし、システムに現在インストールされている環境のみを有効にします。ブラウザや JDK の新しいリリースなどの新しい Java 環境をインストールするたびにこの Enabler を実行してください。

IBM Rational Test Oracle Forms Enabler: Oracle Forms 6.0、5.0、4.5 アプリケーションをテストする場合に使用します。Forms Enabler は、Rational Test Oracle Forms Enabler と Rational Test Object Testing Library for Oracle Forms の両方をインストールします。

注: 必ず Oracle Forms 6.0、5.0、4.5 のいずれかと Oracle Open Client Adapter for ODBC をインストールした後に、Rational Test Oracle Forms Enabler をインストールしてください。

IBM Rational Test Delphi Enabler: Delphi アプリケーションをテストする場合にインストールします。Delphi アプリケーションをテストするには、その前に Rational Object Testing[®] Library for Delphi と Rational Test Delphi Enabler をインストールする必要があります。

IBM Rational Test Visual Basic Enabler: Visual Basic 4.0 アプリケーションをテストする場合にインストールします。プロジェクト内の MDI フォームを含むすべてのフォームに、Rational ActiveX Test Control が入っていることを確認します。この Enabler は、Visual Basic 4.0 のアドイン (拡張機能) です。Visual Basic アドインの詳細については、Visual Basic のマニュアルを参照してください。

注: Visual Basic 5.0 以上のアプリケーションをテストする場合は、Visual Basic Enabler は必要ありません。

IBM Rational XDE Tester について

XDE Tester は、Rational Suites Enterprise Studio、Rational Suites TestStudio[®]、Rational TeamTest バージョン 2002.05.02 で RobotJ として導入された最新バージョンの製品です。XDE Tester は、RobotJ のすべての機能を備えています。

RobotJ から XDE Tester にアップグレードする場合は、重要なアップグレード情報について『IBM Rational Suite アップグレード ガイド』を参照してください。

インストールの手順については、メディア キットに収録されているマニュアルの『IBM Rational XDE Tester インストレーション ガイド』を参照してください。

IBM Rational XDE Modeler と XDE Developer のインストールの準備

IBM Rational XDE Modeler と XDE Developer では、Microsoft Visual Studio .NET、IBM WebSphere[®]、Eclipse プラットフォームと密接に統合されたビジュアルデザインと開発ツールを提供します。

インストールの手順については、メディア キットに収録されているマニュアルの『IBM Rational XDE Modeler および XDE Developer リリース ノート』を参照してください。

第 2 章 IBM Rational 製品のインストール

IBM Rational のデスクトップ クライアントの初期インストールとアップグレードインストールにはIBM Rational セットアップ ウィザードを使用します。この章では、セットアップ ウィザードを使用して 15 ページの『展開方法の選択』で説明した方法で、IBM Rational 製品をクライアント デスクトップにインストールする方法について説明します。

注: サーバー ソフトウェアのインストールと設定、ネットワーク リリース領域のセットアップ、サイト デフォルト ファイルの作成、サイレント インストールの実行の詳細については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ション ガイド』を参照してください。

IBM Rational 製品の以前のリリースの削除

IBM Rational 製品をバージョン 2003.06.13 からインストールする前に、IBM Rational ライセンス サーバーを含む Rational 製品の以前のバージョンがインストールされている場合、ユーザーかシステム管理者は『IBM Rational Suite アップグレード ガイド』を参照する必要があります。このガイドは、IBM Rational Solutions for Windows Online Documentation CD-ROM で参照するか、IBM Publications Center からダウンロードできます。唯一の例外は IBM Rational ClearCase です。前のバージョンの ClearCase と共に製品をインストールできます。

注: フローティング ライセンスを使用している場合は、IBM Rational 製品をコンピュータで更新する前に、ライセンス サーバー名を記録しておきます。新しい IBM Rational 製品をコンピュータにインストールした後、License Key Administrator でホスト名をリセットします。

IBM Rational 製品の展開

表 16 を参照して、管理者によって選択された展開方法に応じて、適切な手順を確認してください。指定された順序で各セクションを参照してください。

表 16. インストール タスク

| 方法 | 参照先 |
|--|--|
| Rational Solutions for Windows CD から直接インストールする方法 | <ul style="list-style-type: none">• 38 ページの『IBM Rational セットアップ ウィザードの使用法』• 40 ページの『[カスタム セットアップ] ページの使用法』• 42 ページの『IBM Rational ライセンス サーバーの指定』• 42 ページの『CD または Web ダウンロードからのRational 製品のインストール』• 49 ページの『インストール後のタスク』 |

表 16. インストール タスク (続き)

| 方法 | 参照先 |
|--|---|
| IBM Web サイトからソフトウェアをダウンロードする方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. www.ibm.com/software/Rational/support/licensing へ移動します。 2. [Rational Download and Licensing Center (Rational Download and Licensing Center)] を選択し、IBM Web メンバーシップに登録します。 3. [フル製品バージョン (Full Product Versions)] または [パッチとサービス リリース (Patches and Service Releases)] を選択します。 4. インストールする Rational 製品を選択します。 5. インストールする Rational 製品のバージョンを選択します。[続行 (Continue)] をクリックして、[ダウンロード] ページへ移動します。 |
| ネットワークのリリース領域からインストールする (標準構成を使用する場合) | <ul style="list-style-type: none"> • 44 ページの『リリース領域からの製品のインストール』 • 49 ページの『インストール後のタスク』 |
| ネットワークのリリース領域からインストールする (デスクトップに合わせてクライアント構成をカスタマイズする場合) | <ul style="list-style-type: none"> • 44 ページの『リリース領域からの製品のインストール』 • 40 ページの『[カスタム セットアップ] ページの使用法』 • 49 ページの『インストール後のタスク』 |
| サイト デフォルト ファイルからサイレント インストールを実行する | <ul style="list-style-type: none"> • 47 ページの『サイレント インストール コマンドの使用法』 • 49 ページの『インストール後のタスク』 |
| 製品を削除する | <ul style="list-style-type: none"> • 79 ページの『第 4 章 IBM Rational 製品の削除』 • 49 ページの『製品を削除するためのコマンド行の使用法』 |
| 製品のインストールをキャンセルする | <ul style="list-style-type: none"> • 51 ページの『製品のインストールのキャンセル』 • 49 ページの『サイレント インストールのキャンセル』 |
| 製品を再インストールする (変更または修復の場合) | 51 ページの『製品を再インストールする (変更または修復の場合)』 |
| サービス リリースを適用する | 52 ページの『サービス リリースの適用』 |

IBM Rational セットアップ ウィザードの使用法

セットアップ ウィザードを使用して IBM Rational 製品をインストールします。セットアップ ウィザードは、製品出荷時またはソフトウェアのダウンロード時に同梱されています。

IBM Rational セットアップ ウィザードの開始前の注意点

システムで IBM Rational セットアップ ウィザードを実行する場合の一般要件は、次のとおりです。

- インストールを開始する前に、SQL Anywhere サービスなどを含む、すべてのアプリケーションを停止します。
- Rational 製品をインストールする前に、管理者権限があることを確認します。
- Windows オペレーティング システムで Rational セットアップ ウィザードを使用するには、ローカル コンピュータに対する Windows 管理者権限が必要です。次のユーザーのいずれかを使用してログインします。
 - ローカル管理者
 - ローカル管理者グループのメンバー
 - ローカル管理者グループのメンバーであるドメイン管理者
- すべてのウィルス対策ソフトウェアを無効にします。これらのプログラムは通常バックグラウンドで実行されるため、インストール アプリケーションのパフォーマンスを妨げることがよくあります。これは、インストールされる各ファイルがウィルス対策ソフトウェアによってチェックされるためです。
- システムが最小要件を満たし、オペレーティング システムが適切であることを確認します。
- セットアップ ウィザードは、デフォルトのインストール パスとして C:\Program Files\Rational を使用します。
- Rational セットアップ ウィザードを使用すると、インストール用に別のドライブを指定している場合でも Microsoft の主要コンポーネントとその他のファイルはオペレーティング システムと同じドライブ (通常は C:\ ドライブ) にインストールされます。これらのファイルに必要なハード ドライブの一時ディスク容量は、5 ～ 15 MB です。
- Rational セットアップ ウィザードでは、すべての IBM Rational 製品を同じディレクトリにインストールする必要があります。Rational 製品を既にコンピュータにインストールしてある場合は、セットアップ ウィザードによって、その他の Rational 製品も同じディレクトリにインストールされます。
- Windows 9.x では、Rational ソフトウェアをネットワーク上のフォルダにインストールしないでください。インストール中、オペレーティング システムによってロックされているファイルを、コンピュータを再起動してインストールしなければならないことがあります。この場合、コンピュータを再起動することで、これらのファイルのロックは解除され、再ロックされる前にファイルを上書きできるようになります。ネットワーク接続は確立されていないため、Rational ソフトウェアをネットワーク上の場所にインストールすると、このアクションが妨げられます。
- レジストリとシステム ディレクトリの最新のバックアップがあることを確認します。
- このリリース 2003.06.13 をマルチプロセッサ マシン上にインストールする場合は、ソフトウェアをインストールする前にその他の処理を使用不可にします。その他のプロセッサを使用不可にする方法については、コンピュータの製造メーカーに問い合わせてください。

- Microsoft Windows 上で動作するユーザー インターフェイス マネージャやデスクトップ環境をすべて終了します。

Rational_install ログ

セットアップ ウィザードでは、エラーの概要は表示されません。Rational_install.log という名前のインストールのログに、すべてのインストール操作が記録されます。ユーザーとカスタマ サポート担当者は、このログを使用して、インストールに関する大部分のエラーを追跡することができます。

デフォルトの設定では、インストール ログ ファイルは、TEMP ディレクトリに置かれます。ディレクトリの場所は、コンピュータに設定された TEMP 環境変数により異なります。場所を検索するには、コマンド ウィンドウを開き、MS-DOS プロンプトで **echo %TEMP%** と入力します。

このフォルダとファイルは非表示にすることができます。これらを Windows エクスプローラで表示するには、[すべてのファイルとフォルダを表示する] をオンにします。

注: インストール ログは累積されません。別のインストールを実行したり、インストールの修復または変更を実行したりすると、既存のログ ファイルが上書きされます。ログを保存する必要がある場合は、別の製品をインストールする前に、ログ ファイルを別の場所にコピーするかログ ファイルの名前を変更してください。

レジストリ サイズ

インストール中に次のシステム・エラーが発生した場合は、指示に従ってください。「レジストリの最大サイズが小さすぎます。Windows が正しく実行するには、レジストリの最大サイズを増やしてください。詳しくは [ヘルプ] を参照してください。」

[カスタム セットアップ] ページの使用法

各製品に対してクライアント ソフトウェアを次のメディアのいずれかからインストールする場合は、以下の表を参照してください。

- Rational Solutions for Windows CD。
- IBM Web ダウンロード パッケージ。
- リリース領域から、管理者が設定したデフォルトを使用しないでインストールする場合。ファイルに記述されたサイト デフォルトを使用する場合は、次の項に進みます。

注: ディスク スペース要件については、7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。[カスタム セットアップ] ページに表示されている数字やページ上の [Space] ボタンで表示される数字を使用しないでください。

表 17. [カスタム セットアップ] ページ

| 選択する製品 | カスタム セットアップ | メモ [®] |
|--------------|--|---|
| ClearCase LT | ClearCase LT <ul style="list-style-type: none"> • Rational ClearCase Microsoft Visual Studio.NET | ClearCase LT クライアント ソフトウェアのみをインストールします。 |
| ClearQuest | ClearQuest <ul style="list-style-type: none"> • メモを参照してください。 | [カスタム セットアップ] ページで選択された機能の選択を解除し、ClearQuest の基本ソフトウェアだけをコンピュータにインストールします。 |
| RequisitePro | RequisitePro <ul style="list-style-type: none"> • データベースの設定 • サンプル プロジェクト • Web サーバー コンポーネント Rational RequisiteWeb | [カスタム セットアップ] ページで既に選択したコンポーネントをインストールします。 |
| Robot | Robot <ul style="list-style-type: none"> • TestManager • Rational Extended Help | Web サーバー コンポーネント機能は選択しません。ManualTest Web Execution 用の Web サーバーをインストールする場合のみ、Web サーバー コンポーネントを選択します。手順については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ショートカット ガイド』を参照してください。 |
| TeamTest | TeamTest <ul style="list-style-type: none"> • ClearQuest • TestSamples セットアップ • Robot • Rational Extended Help • Web サーバー コンポーネント | Web サーバー コンポーネント機能は選択しません。ManualTest Web Execution 用の Web サーバーをインストールする場合のみ、Web サーバー コンポーネントを選択します。手順については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ショートカット ガイド』を参照してください。 |
| TestManager | TestManager <ul style="list-style-type: none"> • Web サーバー コンポーネント | Web サーバー コンポーネント機能は選択しません。ManualTest Web Execution 用の Web サーバーをインストールする場合のみ、Web サーバー コンポーネントを選択します。手順については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ショートカット ガイド』を参照してください。 |

IBM Rational ライセンス サーバーの指定

フローティング ライセンスを使用する場合は、セットアップ ウィザードで IBM Rational ライセンス サーバー名を入力できます。リリース領域からインストールする場合や、サイレント インストールを実行する場合は、管理者がライセンス サーバー名を既に指定している可能性があります。製品の使用にライセンス キーが必要であるにもかかわらず、ユーザーまたは管理者がライセンス キーの名前を指定しなかった場合は、インストール処理の最後に License Key Administrator (LKAD) が起動します。

CD または Web ダウンロードからのRational 製品のインストール

この項では、CD-ROM または IBM Web サイトからダウンロードしたソフトウェア パッケージを使用したデスクトップ製品またはクライアント ソフトウェアの標準インストールについて説明します。展開方法に関わらず、セットアップ ウィザードの指示に従って、ソフトウェアをインストールします。

注: インストールを途中で中断すると、コンピュータが不安定な状態になります。インストール中にセットアップ ウィザードのウィンドウを閉じようとする、インストールを途中で終了するかどうかを確認するメッセージが表示されません。

CD からデスクトップ製品をインストールするには

1. 製品をインストールするローカル コンピュータに、そのローカル コンピュータに対する管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
2. Rational Solutions for Windows Disc 1 をコンピュータの CD ドライブに挿入します。Download Director または zip ファイルを使用してソフトウェアをダウンロードした場合は、Download Director または zip ファイルのいずれかからファイルを抽出した後に *Setup.exe* をクリックします。

セットアップ ウィザードが自動的に起動します。

コンピュータ上で自動実行が無効である場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。次に「*cd_drive:*

¥*Setup.exe*」と入力します。*cd_drive* は CD のドライブ名です。

3. [製品の選択] ページに、インストールできるすべての製品が一覧表示されます。インストールする製品を選択します。
4. [展開方法] ページの [CD イメージからデスクトップ環境へのインストール] をオンにします。
5. ClearCase LT をインストールする場合は、[クライアント/サーバー] ページが表示されます。クライアント コンピュータ上のクライアント ソフトウェアは、サーバーをインストールして設定するまで動作しません。
 - サーバー ソフトウェアをインストールして設定する場合は、[サーバーとクライアント ソフトウェアをインストールする] をオンにします。
 - クライアント ソフトウェアをインストールする場合は、[クライアント ソフトウェアのみをインストールする] をオンにします。
6. [使用許諾契約] ページで、IBM Rational の使用許諾契約に同意するかどうかを選択します。

- 使用許諾契約に同意すると、インストール ウィザードが続行します。
- 使用許諾契約に同意しない場合は、[キャンセル] をクリックしてから [完了] をクリックし、セットアップ ウィザードを終了します。 コンピュータへのインストールを変更する方法については、51 ページの『製品のインストールのキャンセル』を参照してください。

7. [インストール先のフォルダ] ページで、ウィザードで IBM Rational 製品をインストールするディレクトリを指定します。保存場所を変更する場合は、[変更] をクリックします。

注: インストール ウィザードでは、すべての IBM Rational 製品を同じディレクトリにインストールする必要があります。

8. [カスタム セットアップ] ページに、ソフトウェアのインストールに対して設定された機能オプションが表示されます。このページに表示されたデフォルトの機能をそのまま使用することも、インストールをカスタマイズすることもできます。インストールをカスタマイズする必要があるかどうかを確認する場合は、40 ページの『[カスタム セットアップ] ページの使用法』を参照してください。

機能を変更する場合は、[ヘルプ] をクリックします。

注: ディスク スペース要件については、7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』を参照してください。[カスタム セットアップ] ページに表示されている数字やページ上の [Space] ボタンで表示される数字を使用しないでください。

9. 選択した製品に応じて、ウィザードに 1 つまたは複数のカスタム構成のページが表示されます。ウィザードのこのセクションの説明を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。

ウィザードの各ページで、必要な情報を入力します。(すべての必須入力情報はウィザードの左パネルに赤点付きで表示されます。)

ページを移動するには、[次へ] をクリックしてページを順に参照するか、左側のペインのページ タイトルをクリックして目的のページに直接アクセスします。

最後のページの設定が完了したら、[完了] をクリックします。

10. インストールを開始するには、[プログラムをインストールする準備ができました] ページの [インストール] をクリックします。
11. セットアップ ウィザードでコンピュータの再起動が必要な場合は、[Windows の再起動] ページが開きます。Rational セットアップ ウィザードの実行中に、インストールに必要なファイルが使用中だった場合や、コンピュータに共有コンポーネントをインストール必要がある場合は、コンピュータの再起動が必要になる可能性があります。

[再起動する] または [再起動しない] を選択します。再起動しないよう選択した場合、Windows を再起動しないとインストールを完了できないという内容のメッセージが表示されます。

Windows の再起動後、インストール プロセスの残りの部分が自動的に開始します。

12. [セットアップが完了しました] ページが表示されたら、`readme` ファイルに書かれている新機能と既知の問題に関する最新情報を確認することをお勧めします。これらの情報は、Rational Developer Network[®] の Web ページでも参照できます。[完了] をクリックして、インストールを終了します。

リリース領域からの製品のインストール

システム管理者が指定したリリース領域からデスクトップに IBM Rational 製品をインストールするときは、ほとんどの場合、インストール画面に表示されるデフォルトをそのまま使用することをお勧めします。設定されているデフォルトを変更する場合は、管理者に問い合わせてください。

リリース領域からのインストールには、次のタスクがあります。

1. 管理者が [エンタープライズ レベルでの使用向けに展開] オプションをオンにした IBM Rational セットアップ ウィザードまたは SitePrep ウィザードを使用して、リリース領域に 1 つまたは複数のサイト デフォルト ファイルを作成し、ユーザーにサイト デフォルト ファイルの名前とリリース領域のネットワーク上の場所を通知するか、サイト デフォルト ファイルへのショートカットを送信します。

注: リリース領域をセットアップし、そこにサイト デフォルト ファイルを保存する手順については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールセッション ガイド』を参照してください。

2. 次に、リリース領域に移動してサイト デフォルト ファイルを実行するか、デスクトップ クライアントからサイト デフォルト ファイルへのショートカットを実行します。このショートカットを実行すると、リリース領域からデスクトップへのインストールが実行されます。

リリース領域から製品をインストールする場合、管理者が設定した標準構成を使用することも、デスクトップに合わせてカスタマイズすることもできます。標準構成を使用する手順の詳細については、44 ページの『標準構成の使用法』を参照してください。構成をカスタマイズする手順の詳細については、46 ページの『ユーザー独自の構成のカスタマイズ』を参照してください。

標準構成の使用法

以下の操作を行う前に、前の段落の概要情報をお読みください。ユーザーまたは管理者は、製品をリリース領域からインストールする前に、リリース領域とサイト デフォルト ファイルを作成する必要があります。

リリース領域からデフォルトの構成をインストールするには

1. ローカルの管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。
2. 特定のサイト デフォルト ファイルの設定を使用して製品をインストールするには、コマンド ラインでサイト デフォルト ファイルの名前を指定するか、リリース領域で関連するサイト デフォルトのショートカットをクリックします。たとえば、`sitedefs_cqclient.dat` の設定を使用して ClearQuest をインストールす

る場合は、コンピュータのネットワーク ドライブを共有リリース領域にマッピングします。次に、次のいずれかの処理を実行します。

- Windows の DOS プロンプトで **cd** コマンドを入力し、リリース領域のルート ディレクトリに移動します。その後、たとえば、`setup.exe sitedefs_cqclient.dat` と入力します。または、
 - Windows エクスプローラ で、マッピングされたドライブを展開し、`sitedefs_cqclient.lnk` や `sitedefs_cqclient` などのショートカットをクリックして起動します。
3. IBM Rational セットアップ ウィザードの指示に従って、ソフトウェアをインストールします。各ページで [次へ] をクリックし、次のページを開きます。詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

[使用許諾契約] ページに、IBM Rational Software の使用許諾契約が表示されます。

- 使用許諾契約に同意して [次へ] をクリックすると、インストールが続行されます。
- 使用許諾契約に同意しない場合は、インストールを続行できません。[キャンセル] をクリックすると、インストールが終了します。この場合、システムは変更されません。システムは、Rational セットアップ ウィザードの起動前の状態に戻ります。

注: 適切なバージョンの Windows インストーラ ソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合は、セットアップ ウィザードを使用して Rational 製品をインストールできます。インストールをキャンセルしても、Windows インストーラの更新バージョンは削除されません。コンピュータの再起動が必要な場合もあります。

- 4. [インストール先のフォルダ] ページに、デフォルトのインストール先フォルダが表示されます。別のインストール先フォルダを選択する場合は、[変更] をクリックします。[次へ] をクリックします。
- 5. [サイトのデフォルト構成] ページで、[標準構成を使用する] をオンにします。製品に対するデフォルトの機能と既存のサイトのデフォルト値が、クライアントのインストールに使用されます。[次へ] をクリックします。
- 6. [インストール] をクリックし、クライアント デスクトップでインストールを開始します。
- 7. セットアップ ウィザードでコンピュータの再起動が必要な場合は、[Windows の再起動] ページが開きます。Rational セットアップ ウィザードの実行中に、インストールに必要なファイルが使用中だった場合や、コンピュータに共有コンポーネントをインストールする必要がある場合は、コンピュータの再起動が必要になる可能性があります。

[再起動する] または [再起動しない] を選択します。再起動しないよう選択した場合、Windows を再起動しないとインストールを完了できないという内容のメッセージが表示されます。

Windows の再起動後、インストール プロセスの残りの部分が始まります。

- 8. [セットアップが完了しました] ページが開いたら、`readme` ファイルに書かれている新機能と既知の問題に関する最新情報を確認することをお勧めします。これ

らの情報は、IBM developerWorks の Web ページでも参照できます。[完了] をクリックして、インストールを終了します。

ユーザー独自の構成のカスタマイズ

以下の手順を実行する前に、この項で説明している製品のインストールの概要を読んでもください。ユーザーまたは管理者は、製品をリリース領域からインストールする前に、リリース領域とサイト デフォルト ファイルを作成する必要があります。

特定のコンピュータに合わせて構成をカスタマイズするには

1. ローカルの管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。
 2. 特定のサイト デフォルト ファイルの設定を使用して IBM Rational 製品をインストールするには、コマンド ラインでサイト デフォルト ファイルの名前を指定するか、リリース領域で関連するサイト デフォルトのショートカットをクリックします。たとえば、`sitedefs_cqclient.dat` の設定を使用して ClearQuest をインストールする場合は、コンピュータのネットワーク ドライブを共有リリース領域にマッピングします。次に、次のいずれかの処理を実行します。
 - Windows の DOS プロンプトで `cd` コマンドを入力し、リリース領域のルート ディレクトリに移動します。その後、たとえば、`setup.exe` `sitedefs_cqclient.dat` と入力します。または、
 - Windows エクスプローラ で、マッピングされたドライブを展開し、`sitedefs_cqclient.lnk` や `sitedefs_cqclient` などのショートカットをクリックして起動します。
 3. セットアップ ウィザードが起動します。ウィザードの指示に従って、ソフトウェアをインストールします。各ページで [次へ] をクリックし、次のページを開きます。 詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 4. [使用許諾契約] ページに、IBM Rational Software の使用許諾契約が表示されます。
 - 使用許諾契約に同意して [次へ] をクリックすると、インストールが続行されます。
 - 使用許諾契約に同意しない場合は、インストールを続行できません。[キャンセル] をクリックすると、インストールが終了します。 この場合、システムは変更されません。システムは、セットアップ ウィザードの起動前の状態に戻ります。
- 注:** 適切なバージョンの Windows インストーラ ソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合は、セットアップ ウィザードを使用して Rational 製品をインストールできます。インストールをキャンセルしても、Windows インストーラの更新バージョンは削除されません。コンピュータの再起動が必要な場合もあります。
5. [インストール先のフォルダ] ページに、デフォルトのインストール先フォルダが表示されます。別のインストール先フォルダを選択する場合は、[変更] をクリックします。
 6. [サイトのデフォルト構成] ページで、[カスタム クライアント構成を作成する] をオンにします。

- [カスタム セットアップ] ページに、選択する製品の機能が表示されます。製品の機能の詳細については、この章の「[カスタム セットアップ] ページの使用法」を参照してください。

注: ディスク容量の要件については、本書の「インストール前に必要な作業」の章で、「システムとソフトウェアの要件」の表を参照してください。[カスタム セットアップ] ページに表示されている数字やページ上の [Space] ボタンで表示される数字を使用しないでください。

- [次へ] をクリックすると、既存のサイトのデフォルト値を変更できます。(サイトのデフォルト値に対する変更は、現在処理中のインストールにのみ適用されます。) 設定が終了したら、[Done] をクリックします。
7. [インストール] をクリックし、クライアント デスクトップでインストールを開始します。
 8. セットアップ ウィザードでコンピュータの再起動が必要な場合は、[Windows の再起動] ページが開きます。Rational セットアップ ウィザードの実行中に、インストールに必要なファイルが使用中だった場合や、コンピュータに共有コンポーネントをインストール必要がある場合は、コンピュータの再起動が必要になる可能性があります。

[再起動する] または [再起動しない] を選択します。再起動しないよう選択した場合、Windows を再起動しないとインストールを完了できないという内容のメッセージが表示されます。

Windows の再起動後、インストール プロセスの残りの部分が自動的に開始します。

9. [セットアップが完了しました] ページが表示されたら、readme ファイルに書かれている新機能と既知の問題に関する最新情報を確認することをお勧めします。これらの情報は、IBM developerWorks の Web ページでも参照できます。[完了] をクリックして、インストールを終了します。

サイレント インストール コマンドの使用法

サイレント インストールを行うと、同じパラメータを使用して、複数のコンピュータに IBM Rational ソフトウェア製品をインストールすることができます。

サイレント インストールの概要

多くのユーザーが同じパラメータを使用して製品のサイレント インストールを実行できるようにするために、管理者はサイト デフォルト ファイルを作成します。

このサイト デフォルト ファイルによって、セットアップ ウィザードが、コンピュータの特定のディレクトリにプログラム ファイルをインストールします。サイレント インストールのセットアップの詳細については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

サイレント インストールを開始してもインストール画面は表示されません。コンピュータの再起動が必要な場合は、自動的に再起動されます。コンピュータの再起動後は、手動でログオンする必要があります。その後、自動的にインストール ウィザードが再起動され、終了します。インストールの終了時にも、インストールの完了

画面は表示されません。管理者がサイト デフォルト ファイルでライセンス サーバーを指定しなかった場合、またはユーザーがノードロック ライセンス キーを使用している場合は、セットアップ ウィザードの終了後に手動でライセンスを設定しなければならない場合があります。詳しくは、3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』を参照してください。

サイレント インストールの実行

ここでは、コンピュータでサイレント インストールを実行するために必要なコマンドについて説明します。

ユーザーのデスクトップでサイレント インストールを実行するために、管理者はユーザーに対して次の情報を提供します。

- リリース領域にあるサイト デフォルト ファイルと *setup.exe* ファイルへのパス、またはサイト デフォルト ファイルへのショートカット (ショートカットには *.dat* というサフィックスは付きません)
- インストール ディレクトリ (セットアップ ウィザードがユーザーのデスクトップにファイルをインストールする場所)。
- ライセンス キー情報 (必要な場合)。
- すべての IBM Rational 製品の 2003.06.13 以前のバージョンをデスクトップから削除してあることを確認します。サイレント インストールを実行すると、IBM Rational 製品の以前のバージョンを削除する場合に警告メッセージが表示されません。すべての製品を削除するまで、インストールは進みません。この警告メッセージは、インストール ログ ファイルに保存されます。インストールが失敗した場合は、このログ ファイルの内容を確認してください。ログ ファイルの詳細については、40 ページの『Rational_install ログ』を参照してください。

注: サイレント インストールを実行するユーザーにマシンの管理者権限がない場合は、製品のインストールが失敗しても通知されません。

サイト デフォルト ファイルをサイレント モードで実行するには

1. ローカル ドライブをリリース領域にマッピングします (必要な場合のみ)。
2. Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] をクリックし、次のコマンドを入力します。

```
<local drive>: %setup.exe /g <C:%filename.dat >
```

<local drive> は、マッピングされたドライブまたは *setup.exe* へのパスです。*setup.exe* とコマンド */g* との間、*/g* と *filename.dat* ファイルへのパス *C:%filename.dat* との間にはスペースが必要です。

実行可能ファイルが実行され、サイト デフォルト ファイルに指定された製品が、ソース ディレクトリからインストール パスにインストールされます。デフォルトのインストール パスは、*C:%Program Files%Rational%<Rational products>* です。

コンピュータの再起動が必要な場合は、自動的に再起動されます。システムの再起動後は、手動でログオンする必要があります。その後、自動的にインストーラが再起動され、終了します。インストールの終了時にも、インストールの完了画面は表示されません。

管理者がサイト デフォルト ファイルでライセンス サーバーを指定しなかった場合は、セットアップ ウィザードの終了後に手動でライセンスを設定しなければならない場合があります。

注: セットアップ ウィザードでデスクトップ上のディスク容量の不足が検出された場合、ウィザードはインストールをキャンセルし、TEMP ディレクトリの Rational_install.log ファイルにエラーを記録します。ディレクトリの場所は、コンピュータに設定された環境変数により異なります。場所を検索するには、コマンド ウィンドウを開き、DOS プロンプトで **echo %TEMP%** と入力します。

サイレント インストールのキャンセル

サイレント インストールをキャンセルするコマンドはありません。

製品を削除するためのコマンド行の使用法

現在のリリース (2003.06 以降) の IBM Rational 製品を削除するには、次のコマンドを使用します。これらのコマンドを実行しても、以前のバージョンの Rational 製品は削除されません。

`<local drive>:%msiexec.exe /X <path to product>.msi /qn`

`<local drive>:%` は、マッピングされたドライブまたは msiexec.exe へのパスです。変数 `<path to product>.msi` (ClearQuest.msi など) は、インストールの処理中などに ClearQuest によって使用されるネットワーク全体のリリース領域にある MSI ファイルへのパスです。MSI ファイルは、リリース領域内の Setup ディレクトリにあります。コマンド `/x` はアンインストール処理を示し、`/qn` はアンインストールの処理中にユーザー インターフェイスが表示されないことを示します。

インストール後のコマンドの使用法

インストール後のコマンドのセットアップ方法については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』を参照してください。

インストール後のタスク

次の項で説明する内容は、すべての展開タイプに適用されます。

ライセンス

インストールの完了後に License Key Administrator (LKAD) が起動されなかった場合、製品はライセンスされているか、ライセンスの必要がありません。51 ページの『製品をインストールするためのチェックリスト』にスキップします。

製品のインストールの最後に LKAD が起動される理由は、次のとおりです。

| 展開タイプ | 理由 |
|---|---|
| CD イメージからデスクトップ環境へのインストール | <ul style="list-style-type: none"> • セットアップ ウィザードでライセンス サーバーを指定しなかった、または • ノードロック ライセンス キーが必要な製品である。 |
| Web ダウンロードからのインストール | <ul style="list-style-type: none"> • セットアップ ウィザードでライセンス サーバーを指定しなかった、または • ノードロック ライセンス キーが必要な製品である。 |
| リリース領域からのインストール (エンタープライズ レベルでの使用向けに展開) | <ul style="list-style-type: none"> • 管理者がライセンス サーバー名をサイト デフォルト ファイルに指定しなかった、または • ノードロック ライセンス キーが必要な製品である。 |
| サイレント インストール | <ul style="list-style-type: none"> • 管理者がライセンス サーバー名をサイト デフォルト ファイルに指定しなかった、または • ノードロック ライセンス キーが必要な製品である。 |

LKAD が表示される場合は、次のタスクを実行して製品をライセンスする必要があります。

| 設定する ライセンス キー | タスク | 参照先 |
|---------------------|--|---|
| フローティング ライセンス キー | <p>LKAD でライセンス サーバーの名前を入力する。</p> <p>注: フローティング ライセンスを使用している場合は、ライセンス サーバー システムが稼働していることを確認してから、デスクトップ コンピュータ上で Rational License Key Administrator を起動してください。License Key Administrator が稼働していないと、ライセンス取得時にエラーが返されます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』、または • 『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』、または • LKAD ヘルプ |
| ノードロック ラ イセンス キー | <p>LKAD でノードロック ライセンス キーをインポートする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 3 ページの『IBM Rational デスクトップ製品のライセンス』、または • 『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』、または • LKAD ヘルプ |

製品をインストールするためのチェックリスト

製品のインストール後すぐにインストール後のタスクを実行します。製品の設定が必要かどうかが不明な場合は、1 ページの『第 1 章 インストール前に必要な作業』を参照して、製品のインストール チェックリストを探してください。

製品のインストールのキャンセル

インストールの処理中または完了前に [キャンセル] をクリックした場合、システムは変更されません。システムは、セットアップ ウィザードの起動前の状態に戻ります。

注: 適切なバージョンの Windows インストーラ ソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合は、セットアップ ウィザードを使用して Rational 製品をインストールできます。インストールをキャンセルしても、Windows インストーラの更新バージョンは削除されません。コンピュータの再起動が必要な場合もあります。

製品を再インストールする (変更または修復の場合)

Rational のインストールを修正または修復するには、[アプリケーションの追加と削除] を使用します。

注: 製品の修復インストールまたは変更インストールを行う前に、元のインストールのログを別の場所に保存するか、名前を変更する必要があります。このようにしないと、ログが上書きされます。

製品を削除する方法については 79 ページの『第 4 章 IBM Rational 製品の削除』を参照してください。

1. 管理者権限を持つユーザーとして、製品をインストールするローカル コンピュータにログインします。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[コントロール パネル] をクリックし、[アプリケーションの追加と削除] をクリックします。
3. IBM Rational 製品を選択して、[変更] をクリックします。
 - **既存のインストールを変更します。** このオプションをオンにすると、インストールする製品と製品の機能を変更できます。セットアップ ウィザードで、機能を選択または選択解除するための [カスタム セットアップ] ページが表示されます。たとえば、ClearQuest MultiSite 管理ツールを ClearQuest クライアントのインストールに追加し、この機能なしでクライアントをインストールします。ClearQuest クライアントを再インストールするには、[カスタム セットアップ] ページでこの製品機能を選択解除し、ClearQuest クライアントを再インストールします。

[カスタム セットアップ] ページで [修正] をクリックしてから [次へ] をクリックし、機能を選択または選択解除します。[次へ] をクリックし、[インストール] をクリックして、インストールを開始します。

- **既存のインストールを修復します。** このオプションをオンにすると、損傷したレジストリを修復したり、誤って削除した可能性があるファイルを置き換えた

りすることができます。このオプションをオンにしても、完了していないインストールや失敗したインストールを修復することはできません。

注: [カスタム セットアップ] ページの [ディスク] ボタンをクリックすると、致命的なエラーが発生します。セットアップ ウィザードが修正操作を中止するのを防ぐには、[ディスク] ボタンをクリックしないでください。

修復を開始するには、[修復] をクリックしてから [次へ] をクリックし、[インストール] をクリックします。処理の最後に、修復のステータスが表示されます。

IBM Rational セットアップ ウィザードの警告またはブロック

インストール処理中にブロックまたは警告が発生した場合、メッセージ全体を記憶していないときは、表 18 で確認してください。

表 18. 警告/ブロックと解決法

| 警告/ブロック | 解決法 |
|--|---|
| この製品を、サポートされていないオペレーティング システムにインストールしようとしています。 | サポートされているオペレーティング システムにインストールしてください。サポートされているオペレーティング システムとサービス パックのリストは、製品のリリース ノートを参照してください。 |
| サポートされていないブラウザがインストールされているシステムに、この製品をインストールしようとしています。 | Rational Unified Process [®] 、ProjectConsole、Rose、Web Publisher、および XDE Web Publisher を使用する前に、IBM Rational 製品のリリース ノートを参照して、サポートされているブラウザのリストを確認してください。 |
| SiteCheck と互換性のないバージョンの Office がインストールされているシステムに、この製品をインストールしようとしています。 | サポートされているバージョンのリストは、製品のリリース ノートを参照してください。 |
| サポートされていないバージョンの WebSphere Studio に、この製品をインストールしようとしています。 | サポートされているバージョンを使用してください。サポートされているオペレーティング システムのリストは、リリース ノートを参照してください。 |
| MDAC と ODBC | 適切な MDAC ドライバと ODBC ドライバがコンピュータにインストールされていない場合、セットアップ ウィザードはバージョン 2.7 の Microsoft Data Access Components (MDAC) と Open Database Connectivity (ODBC) の各ドライバをインストールします。詳細については、Microsoft Knowledge Base の記事 216149 を参照してください。 |

サービス リリースの適用

IBM Rational Software サービス リリースを検索するには、次の手順を実行します。

1. <https://www6.software.ibm.com/reg/rational/rational-i> で、Rational Download and Licensing Center にログインします。
2. [パッチとサービス リリース (Patches and Service Releases)] を選択します。
3. インストールする Rational 製品を選択します。
4. インストールする Rational 製品のバージョンを選択します。[続行 (Continue)] をクリックして、[ダウンロード] ページへ移動します。

サービス リリース ノートは、[ダウンロード] ページからもダウンロードできます。リリース ノートには、サービス リリースの機能、制限事項、手順が記載されています。この情報を使用して、Rational サービス リリースをインストールしてください。

第 3 章 インストール後に必要な作業

この章では、スタンドアロンまたは Rational Suite の一部として IBM Rational ClearCase LT、ClearQuest、RequisitePro、テスト製品をインストールした後の、クライアント構成の手順について説明します。1 ページの『第 1 章 インストール前に必要な作業』に記載されている、製品をインストールするためのチェックリストに、これらのタスクの製品固有のリストを示しています。

IBM Rational ClearCase LT のインストール後に必要な作業

この項の手順に従って、ClearCase LT ネイティブ クライアントを設定します。ClearCase Web を使用している場合は、55 ページの『ClearCase Web へのログイン』を参照してください。

注: ClearCase LT サーバーには ClearCase LT クライアント ソフトウェアが含まれます。したがって、次の手順はサーバーに適用できます。

ビューの作成

ユーザーが ClearCase LT サーバー上のデータにアクセスできるように、管理者はビューを作成する必要があります。ビューの作成方法は、サイトで IBM Rational 統一変更管理 (UCM) とベース ClearCase のどちらを使用するかによって異なります。

UCM で開発ビューとインテグレーション ビューを作成するには

1. デスクトップ上の [ClearCase LT] アイコンをクリックして、ClearCase エクスプローラを起動します。
2. [ツールボックス] タブをクリックし、[UCM] バーをクリックしてから、[プロジェクトに参加] アイコンをクリックしてプロジェクトに参加ウィザードを起動します。

ベース ClearCase でビューを作成するには

1. デスクトップ上の [ClearCase LT] アイコンをクリックして、ClearCase エクスプローラを起動します。
2. [ツールボックス] タブをクリックし、[ベース ClearCase] バーをクリックしてから、[ビューの作成] アイコンをクリックします。

ClearCase Web へのログイン

ClearCase Web にアクセスするには

1. ClearCase LT LT サーバー名を管理者に確認します。
2. Web ブラウザを起動し、次の URL を入力します。

http://<server name>/ccweb

server name は、ClearCase LT サーバー コンピュータのホスト名です。

3. [Enter] を押します。情報のログは不要です。

IBM Rational ClearQuest のインストール後に必要な作業

この項の手順に従って、ClearQuest ネイティブ クライアント (表 19) または ClearQuest Web クライアント (表 20) をデスクトップ上に設定します。

表 19. ClearQuest ネイティブ クライアントのインストール後に必要な作業

| タスク | 参照先 |
|---|---|
| ClearQuest の DB2 データベースにアクセスする場合は、データベース別名を作成します。 | 56 ページの『DB2 データベース 別名の作成』 |
| ClearQuest データベースに接続する | 57 ページの『ClearQuest データベースへの接続』 |
| ClearQuest にログインします。 | 60 ページの『ClearQuest へのログイン』 |
| 電子メール通知を送受信するように ClearQuest クライアントを設定する | <ul style="list-style-type: none">• 61 ページの『電子メール通知を受信するための ClearQuest クライアントの設定』• 61 ページの『電子メール通知を送信するための ClearQuest クライアントの設定』 |

表 20. New ClearQuest Web クライアントのインストール後に必要な作業

| タスク | 参照先 |
|--|---|
| ClearQuest Web にログインします。 | 62 ページの『New ClearQuest Web へのログイン』 |
| New ClearQuest Web クライアントに電子メール通知を設定します。 | 63 ページの『電子メール通知を受信するための New ClearQuest Web クライアントの設定』 |

DB2 データベース 別名の作成

ClearQuest Windows クライアントを使用して ClearQuest DB2 データベースにアクセスするには、Client Configuration Assistant を使用して、使用する物理 ClearQuest データベースごとにデータベース別名を作成します。管理者は DB2 データベースの作成時に、特定のデータベース別名の名前を割り当てます。

1. DB2 7.x の場合は、[スタート]、[IBM DB2]、[クライアント構成アシスタント] をクリックします。DB2 8.1 の場合は、[スタート]、[IBM DB2]、[Set-up Tools]、[Configuration Assistant] をクリックします。
2. DB2 7.x の場合は、[クライアント構成アシスタント] ダイアログ ボックスで [追加] をクリックします。次に、[ネットワークを検索する] をクリックし、[次へ] をクリックします。DB2 8.1 の場合は、[DB2 Message] ダイアログ ボックスで [Yes] をクリックします。次に、[ネットワークを検索する] をクリックし、[次へ] をクリックします。
3. [識別されたシステム] フォルダを展開します。ClearQuest データベースが配置されている DB2 データベース サーバー ホストが表示されている場合は、そのサーバーのフォルダを展開し、別名を作成するデータベース名を選択します。[次へ] をクリックします。

注: 対象のDB2 サーバー コンピュータが見つからない場合は、[他のシステム]を展開してください。それでもコンピュータが表示されない場合は、ClearQuest データベース管理者に問い合わせてください。ネットワークに問題があることも考えられます。

4. [データベース別名] ボックスに別名を入力します。[注釈] ボックスに任意の注釈を入力し、[次へ] をクリックします。
5. [このデータベースを ODBC に登録] オプションがオンになっている場合は、オフにします。[完了] をクリックします。
6. 確認のダイアログ ボックスが表示されます。DB2 データベースへのアクセスをテストするには、[Test Connection] をクリックし、[ユーザー名] ボックスにユーザー名を、[パスワード] ボックスにパスワードを入力します。

接続が失敗した場合は、次のコマンドを使用して接続を再試行します。

```
db2
```

```
db2> catalog TCPIP node node-name remote host-name server port-number
```

```
db2> catalog database database-alias at node node-name
```

```
db2> terminate
```

ClearQuest クライアントで、ClearQuest メンテナンス ツールを使用してスキーマ リポジトリを作成するか、DB2 データベース サーバーへの接続を設定する場合、DB2 クライアントの使用時に作成したデータベース別名がメンテナンス ツールの [データベースの別名] ボックスに設定されます。

ClearQuest データベースへの接続

ClearQuest Windows クライアントのインストール後、既存のスキーマ リポジトリに接続する必要があります。ClearQuest 管理者は、データベース プロパティ情報を次のいずれかの方法で提供します。

- ClearQuest 管理者がスキーマ リポジトリのデータベース プロパティをユーザーに提供し、ユーザーは新しい接続を作成できます。詳細については、57 ページの『新しい接続の作成』を参照してください。
- ClearQuest 管理者が、クライアント ユーザーがスキーマ リポジトリに接続するための接続プロファイルを作成できます。詳細については、59 ページの『接続プロファイルの使用』と59 ページの『接続プロファイルのインポート』を参照してください。

注: ClearQuest データベースで DB2 が使用されている場合は、DB2 クライアント ソフトウェアをインストールして ClearQuest に接続する前にデータベース別名を作成します。詳しくは、23 ページの『DB2 クライアントのインストール』および 56 ページの『DB2 データベース 別名の作成』を参照してください。

新しい接続の作成

次の手順に進む前に、データベースのプロパティ情報について ClearQuest サイト管理者に問い合わせてください。

1. Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] の順にポイントし、[ClearQuest メンテナンス ツール] をクリックします。
2. [接続] メニューの [新規作成] をクリックします。
3. [既存の接続] 領域で、強調表示されている項目にエイリアス名を入力します。
4. [スキーマ リポジトリのプロパティ] グループ ボックスで、スキーマ リポジトリとして指定されている製造元データベースのプロパティを指定します。リストから製造元データベースを選択し、そのデータベースの必須プロパティを入力します。

データベース プロパティ

MS_ACCESS UNC スタイルのパスを使用して、スキーマ リポジトリの完全なパスを入力します。例を次に示します。

¥¥DevServer¥ProjectShare¥CQ_DBS¥schema_repo.mdb

または

データベースを格納するディレクトリを参照して指定することもできます。UNC スタイルのパス名になるように、Windows の [ネットワーク コンピュータ] でパス名を確認してください。

SQL_ANYWHERE

UNC スタイルのパスを使用して、スキーマ リポジトリの完全なパスを入力します。例えば、

¥¥DevServer¥ProjectShare¥CQ_DBS¥schema_repo.mdb です。

または

- データベース サーバーの名前を入力します。
- SQL Anywhere サーバーとの通信に使用するプロトコルを指定します。
- データベース ホストの名前を入力します。
- [接続オプション] を設定します。デフォルト接続オプションは、**SERVER_VER=8.0** です。このオプションを使用して、SQL Anywhere バージョン 8.0.1 または 8.0.2 データベースに接続します。接続オプションの使用についての詳細は、『IBM Rational ClearQuest ガイド補足』を参照してください。

SQL_SERVER

- スキーマ リポジトリを格納するデータベースの SQL Server データベース名を入力します。
- データベース サーバーの名前を入力します。
- スキーマ リポジトリ用または読み取り専用のユーザー ログイン名を入力します。
- スキーマ リポジトリ用または読み取り専用のユーザー ログイン パスワードを入力します。
- 接続オプションを入力します。接続オプションの使用についての詳細は、『IBM Rational ClearQuest ガイド補足』を参照してください。

ORACLE

- データベース サーバーの名前を入力します。
- Oracle インスタンス名 (または SID) を入力します。
- スキーマ リポジトリ用に作成した Oracle ログインを入力します。
- 指定したログインのパスワードを入力します。
- 接続オプションを入力します。デフォルト接続オプションは **LOB_TYPE=CLOB** です。CLOB (Character Large Object) は、Oracle データベースの複数行検索をサポートします。接続オプションの使用についての詳細は、『IBM Rational ClearQuest ガイド補足』を参照してください。

DB2

- [ベンダー] ボックスで DB2 を選択します。
- データベース別名を入力します (DB2 データベースを指すデータベース別名)。
- スキーマ リポジトリ用に作成した DB2 ログインを入力します。
- 指定したログインのパスワードを入力します。

5. [終了] をクリックすると、接続が作成されます。

接続プロファイルの使用

ClearQuest 管理者は、ショートカットとして使用できる接続プロファイルを作成できます。

ClearQuest 管理者も ClearQuest クライアント ユーザーも、接続プロファイルを後で使用できるように、インポートまたはエクスポートできます。

接続プロファイルをインポート/エクスポートするには、ClearQuest メンテナンス ツールを使用します。

接続プロファイルのインポート

以前に作成した接続プロファイルを使用するには、接続プロファイルをインポートします。

1. Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] の順にポイントし、[ClearQuest メンテナンス ツール] をクリックします。
2. [ファイル] メニューの [プロファイルのインポート] をクリックします。
3. [プロファイル情報のインポート] 領域で、インポートするプロファイルのパスとファイル名を入力します。

注: リリース領域からの ClearQuest クライアントのインストールが完了後に [インポート] ページが表示されると、ClearQuest メンテナンス ツールを実行しているログオン ID が ClearQuest をインストールしたユーザーと同一の場合のみ、プロファイルのデフォルト ロケーション (**SitePrep ウィザード** を使用して定義されたもの) が [プロファイル情報のインポート] 領域に事前

定義されます。同一のログオン ID でない場合、cqprofile.ini ファイルの UNC パスを入力、または手動でナビゲートする必要があります。

4. [次へ] をクリックします。
5. インポートする接続を選択し、[スキーマ リポジトリのプロパティ] に表示されている情報を確認して [終了] をクリックします。

ClearQuest へのログイン

ClearQuest メンテナンス ツールを使用してスキーマ リポジトリへの新しい接続を作成した後は、スキーマ リポジトリにログインして、アクセスするユーザー データベースを選択できます。

ログインする前に、ClearQuest 管理者からユーザー名とパスワードを入手する必要があります。

ログインするには、次の手順を実行します。

1. Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational ClearQuest] の順にポイントし、[ClearQuest] をクリックします。
2. 複数のスキーマ リポジトリへの接続を作成した場合は、[Rational ClearQuest スキーマ リポジトリ] ダイアログ ボックスでスキーマ リポジトリを選択して、[次へ] を選択します。
3. ユーザー名とパスワードを入力し、ユーザー データベースを選択して [OK] をクリックします。ClearQuest クライアントが開き、ClearQuest の使用を開始できます。

注: [警告 - 無効なログイン] ダイアログ ボックスが表示された場合は、[詳細] オプションをクリックして、情報を確認します。

Crystal Reports と ClearQuest Windows クライアントの併用

IBM Rational ClearQuest では、次の目的のために Crystal Reports レポート作成ソフトウェアと統合されています。

- レポート書式の作成。レポート作成者は、Crystal Reports Developer Edition に含まれる Crystal Reports Designer を使用して、新規レポートを作成したり、既存のレポートのレイアウトを編集したりできます。
- レポートの実行、表示、出力。ClearQuest Windows、ClearQuest Web クライアントのユーザーは、複数セットの ClearQuest レコードについてのレポートを作成できます。
- レコードの出力。ClearQuest Windows クライアントを使用するユーザーは、クエリー結果から ClearQuest レコードを選択して、レポート書式を使用してレコードを出力できます。

注: レポート作成についての詳細は、Rational ClearQuest クライアントのオンラインヘルプを参照してください。

Rational ClearQuest バージョン 2003.06.10 では、レポートを実行、表示、作成するために、Crystal Reports ファイルを Crystal Reports Developer's Edition バージョン 8.5 とは別にインストールする必要がありました。Rational ClearQuest バージョン

2003.06.13 では、レポートの実行と表示に必要な Crystal Reports のファイルは ClearQuest に組み込まれており、ClearQuest Windows クライアントと共に自動的にインストールされます。インストールされるファイルは、Crystal Reports バージョン 10 に基づいています。

ただし、新規レポートを作成したり、ClearQuest と共に出荷された障害レポートをカスタマイズするには、Crystal Reports Developer's Edition バージョン 10 を購入する必要があります。Crystal Reports Developer's Edition バージョン 10 のソフトウェアを入手するには、<http://japan.businessobjects.com/> から Business Objects に問い合わせてください。

電子メール通知を受信するための ClearQuest クライアントの設定

電子メール通知を受信するように Windows で ClearQuest クライアントを設定するには、ユーザー プロファイルを次のように編集します。

1. [表示] メニューの [ユーザー プロファイルの変更] をクリックします。[ユーザー プロファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [電子メール] ボックスに電子メール アドレスを入力します。
3. [OK] をクリックして変更を保存します。

電子メール通知を送信するための ClearQuest クライアントの設定

ClearQuest 管理者がリリース領域の作成時にサイトに対するデフォルトの電子メール アドレスを設定した場合 (SMTP に基づいて)、ClearQuest for Windows 版のクライアント ソフトウェアのインストール時にこの電子メール アドレスがデフォルトとして設定されます (Rational SitePrep ウィザードを使用してサイトのデフォルト値を設定する方法については、『IBM Rational Software サーバー製品インストールレーション ガイド』を参照してください)。

ClearQuest Windows 版をインストールしたら、電子メール通知を有効にするか (サイトのデフォルト電子メール アドレスが定義されていない場合)、デフォルト電子メール アドレスを変更します。次の手順に従います。

1. [表示] メニューの [電子メール オプション] をクリックして、電子メール オプション ウィザードを起動します。[電子メール プロバイダの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [電子メールによる通知] チェック ボックスをオンにします。
3. [電子メール プロバイダ] リストで [MAPI] または [SMTP] を選択します。[次へ] をクリックします。
4. [SMTP] を選択すると、[メール サーバーの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。次の手順に従います。
 - a. [送信 SMTP サーバー] ボックスに、電子メール サーバーの SMTP ホスト アドレスを入力します。ホストのアドレスがわからない場合は、ClearQuest 管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。
 - b. [電子メール アドレス] ボックスで、ClearQuest レコードを変更したときに電子メール通知を送信する場合の送信元の電子メール アドレスを入力します。

たとえば、自分の電子メール アドレスまたは所属するグループの電子メール アドレスを入力します。電子メール アドレスには、RFC-822 に定められた有効なアドレスを指定する必要があります。詳細については、ClearQuest 管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。

- c. [終了] をクリックして変更を保存します。
5. [MAPI] を選択すると、[プロファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。次の手順に従います。
 - a. [MAPI プロファイル] リストからプロファイルを選択します。ClearQuest によって既存のプロファイルが自動的に検出され、リストに表示されます。自分のコンピュータに電子メールを設定してある場合は、プロファイルが既に存在しています。リストにプロファイルが 1 つも表示されない場合は、ClearQuest 管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。
 - b. [完了] をクリックします。

注: MAPI 通知は、コラボレーション データ オブジェクトをインストールしない限り動作しません。コラボレーション データ オブジェクトをクライアント コンピュータにインストールしていない場合は、62 ページの『コラボレーション データ オブジェクトのインストール』の処理を実行してください。

コラボレーション データ オブジェクトのインストール

ClearQuest の MAPI 通知が正しく動作するには、コラボレーション データ オブジェクトを Microsoft Outlook 2000 または Outlook 2003 にインストールする必要があります。

Microsoft Outlook 2000 または Microsoft Outlook 2003 をインストールしていない場合は、Microsoft Outlook 2000 および Microsoft Outlook 2003 の推奨インストール手順およびガイドラインに従ってください。コラボレーション データ オブジェクトをインストールするオプションを必ずオンにしてください。

Microsoft Outlook 2000 または Microsoft Outlook 2003 を既にインストール済みの場合は、次の手順に従います。

1. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[コントロール パネル] をクリックします。次に、[アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
2. **Outlook 2000** または **Outlook 2003** (Outlook のインストール方法によっては Office 2000 または Office 2003) を選択し、[変更] をクリックします。
3. [Microsoft Office] を展開し、コラボレーション データ オブジェクトのアイコンをクリックします。
4. リストの [マイ コンピュータから実行] をクリックします。
5. 完了したら、[今すぐ更新] をクリックします。

New ClearQuest Web へのログイン

New ClearQuest Web に初めてログインする場合は、次の手順を実行します。

1. 使用する ClearQuest URL、データベース名、ユーザー名とパスワードを管理者に問い合わせます。

2. Web ブラウザを起動し、次の URL を入力します。

`http://<host>/<alias>`

各パラメータの内容は次のとおりです。

- `<host>` は ClearQuest Web アプリケーション サーバーのホスト名です。
- `<alias>` は、ClearQuest Web ファイルがあるディレクトリです。

3. [Enter] を押します。
4. New ClearQuest Web ログイン ページで次の操作を行います。
 - a. [ユーザー名]、[パスワード]、[データベース] に、管理者から入手した情報を入力します。
 - b. [ログイン] をクリックします。

電子メール通知を受信するための New ClearQuest Web クライアントの設定

ClearQuest 管理者が New ClearQuest Web サーバー コンポーネントをインストールしたら、New ClearQuest Web クライアントが電子メール通知を受信するように設定する必要があります。この処理を行うには、『IBM Rational New ClearQuest Web 管理ガイド』を参照してください。

IBM Rational RequisitePro のインストール後に必要な作業

RequisitePro と Oracle クライアントのインストール後、必要に応じて、デスクトップ上で次の処理を行います。

- Oracle または DB2 データベースのエイリアス (別名) を作成する
- データベースを使用して RequisitePro データを保存する RequisitePro プロジェクトを作成する
- 既存のプロジェクトをカタログに追加し、そのプロジェクトを開く

RequisitePro Web クライアントを使用するには、68 ページの『RequisiteWeb へのログイン』を参照してください。

各クライアントにおける Oracle データベース エイリアスの定義

Oracle の SQL*Net または Net8 Easy Configuration ツールを使用して、クライアントから Oracle データベース サーバーにアクセスできるように設定できます。ほかのユーザーとプロジェクトを共有する場合は、データベース管理者が決定した整合性のあるデータベース エイリアスまたはサービス名を必ず使用してください。

各クライアントにおける DB2 データベース別名の定義

DB2 Connect™ Personal Edition を使用してクライアント デスクトップに DB2 別名を作成し、DB2 データベース サーバーにアクセスします。ほかのユーザーとプロジェクトを共有する場合は、必ず、データベース管理者またはプロジェクト管理者が決定した一貫性のあるデータベース別名を使用してください。

注: [このデータベースを ODBC に登録] チェック ボックスがオフになっていることを確認してください。

RequisitePro プロジェクトの作成

データベース管理者にデータベース製造元を問い合わせ、この項の製造元別の手順 (64 ページの『Oracle でのプロジェクトの作成』または 65 ページの『SQL Server でのプロジェクトの作成』) に従います。

Microsoft Access データベースのプロジェクト データの場合は、データ トランスポート ウィザードを使用してデータを Oracle データベースまたは SQL Server のデータに変換できます。64 ページの『データ トランスポート ウィザードの使用』を参照してください。

データ トランスポート ウィザードの使用

プロジェクトを既存の Microsoft Access データベースから Oracle、DB2、または SQL Server のデータベースに変換するには、データ トランスポート ウィザードを使用します。Windows エクスプローラで、データ トランスポート ウィザードを起動します。ディレクトリ ¥Program Files¥Rational¥RequisitePro¥bin¥ に移動し、実行可能ファイル rqdatatransportwiz.exe をダブルクリックします。

Oracle でのプロジェクトの作成

次の手順に従って、プロジェクト データベースに Oracle を使用する RequisitePro プロジェクトを作成します。

Oracle の SQL*Net または Net8 Easy Configuration ツールを使用して、クライアント コンピュータから Oracle データベース サーバーにアクセスできるように設定できます。ほかのユーザーとプロジェクトを共有する場合は、データベース管理者が決定した整合性のあるデータベース エイリアスまたはサービス名を必ず使用してください。

RequisitePro から Oracle にアクセスできるように設定するには、データベース管理者から次の情報を入手する必要があります。

- Oracle データベース サーバー名 (TCP/IP ホスト名)
- Oracle データベースのエイリアスまたはサービス名
- RequisitePro プロジェクトを保存する Oracle スキーマの名前 (次の手順を参照)
- Oracle データベースへのログオン時に使用するユーザー ID
- Oracle データベースへのログオン時に使用するユーザー パスワード

Oracle で RequisitePro プロジェクトを作成するには

1. RequisitePro で、[ファイル] メニューの [新規作成] をポイントし、[プロジェクト] をクリックします。[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. プロジェクト テンプレートを選択します。

注: ダイアログ ボックスの下部にある詳細の欄には、各テンプレートを選択するたびに、その説明が表示されます。

3. [OK] をクリックします。Rational の [RequisitePro プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. プロジェクト名とディレクトリの場所を入力します。

5. [データベース] ボックスのリストで [Oracle] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [構成] をクリックします。[Microsoft ODBC for Oracle セットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [データ ソース名] ボックスと [説明] ボックスに設定されているデフォルト値は変更しないでください。
8. [ユーザー名]に、Oracle データベース管理者が割り当てた Oracle データベースにログオンするときのユーザー名を入力します。デフォルトのユーザー名は **reqpro** です。
9. [サーバー] フィールドに、デスクトップの設定時に Oracle データベースへのアクセス用として入力したエイリアスまたはサービス名を入力します。

注: Oracle データベース内の共有 RequisitePro デスクトップにアクセスするコンピュータは、これと同じデータベースのエイリアスまたはサービス名を使用する必要があります。

10. [OK] をクリックします。[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
11. [アカウント情報] をクリックします。[データベースのアカウント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
12. [ユーザー ID] ボックスは変更しないでください。前のダイアログ ボックスで入力したユーザー名と一致している必要があります。
13. Oracle サーバーにログオンするためのユーザー パスワードを入力します。
(Oracle データベース管理者からあらかじめパスワードを入手する必要があります。)
14. [パスワードの確認] ボックスに、もう一度パスワードを入力します。
15. [スキーマ] ボックスに、Oracle データベース管理者が RequisitePro のデータを Oracle に保存するために設定した Oracle スキーマの名前を入力します。
16. [OK] をクリックし、[データベースのアカウント情報] ダイアログ ボックスを終了します。[OK] をクリックして、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを終了します。
17. プロジェクトの作成が終了したら、[OK] をクリックして [プロジェクト] ダイアログ ボックスを終了します。

SQL Server でのプロジェクトの作成

次の手順に従って、プロジェクト データベースに SQL Server を使用する RequisitePro プロジェクトを作成します。

RequisitePro から SQL Server にアクセスできるように設定するには、データベース管理者から次の情報を入手する必要があります。

- SQL Server コンピュータ名 (TCP/IP ホスト名)
- SQL Server での RequisitePro プロジェクト用のデフォルト データベース (**RequisitePro** など)
- SQL Server データベースへのログオン時に使用するユーザー ID (**ReqPro**など)

- SQL Server データベースへのログオン時に使用するユーザー パスワード (reqpro.など)

SQL Server で RequisitePro プロジェクトを作成するには

1. RequisitePro を起動します。RequisitePro で、[ファイル] メニューの [新規作成] をポイントし、[プロジェクト] をクリックします。[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. プロジェクト テンプレートを選択します。

注: ダイアログ ボックスの下部にある詳細の欄には、各テンプレートを選択するたびに、その説明が表示されます。

3. [OK] をクリックします。Rational の [RequisitePro プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. プロジェクト名とディレクトリの場所を入力します。
5. [データベース] ボックスのリストで [SQL Server] をクリックします。
6. [プロパティ] をクリックします。[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスで、[構成] をクリックします。[SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する] ダイアログ ボックスが表示されます。
8. [名前] ボックスと [説明] ボックスに設定されているデータ ソースの名前と説明は変更しないでください。[サーバー] ボックスにデータベース管理者から指定された SQL Server の名前を入力します。
9. [次へ] をクリックします。次のデータ ソース画面が表示されます。
10. [ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う] オプションをオンにします。

注: RequisitePro はWindows NT の認証をサポートしていません。

11. [SQL Server に接続して追加の構成オプションの既定設定を取得する] チェック ボックスを選択します。
12. [ログイン ID] ボックスと [パスワード] ボックスに、データベース管理者から指定されたログイン ID とパスワード (「ReqPro」、「reqpro」など) を入力します。[次へ] をクリックします。
13. [既定のデータベースを以下のものに変更する] チェック ボックスをオンにし、データベース管理者から指定されたデータベース名 (RequisiteProなど) を選択します。[次へ] をクリックします。
14. [次へ] をクリックして、デフォルトの言語、文字、地域の各設定をそのまま使用します。次の画面で表示されるログ ファイルの使用は、必須ではありません。

注: [SQL Server のシステム メッセージを以下の言語に変更する] チェック ボックスはオフにしてください。このチェック ボックスをオンにすると、最初に作成した後でプロジェクトを開くことができなくなります。

15. [完了] をクリックします。[ODBC Microsoft SQL Server セットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。

16. [データソースのテスト] をクリックします。[SQL Server ODBC データ ソース テスト] ダイアログ ボックスが表示されます。
17. [OK] をクリックします。[ODBC Microsoft SQL Server セットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。
18. [OK] をクリックします。[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
19. [データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスで、[アカウント情報]をクリックします。[データベースのアカウント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
20. [ユーザー ID] ボックスと [パスワード] ボックスに、データベース管理者から指定された SQL Server データベースにアクセスするためのログイン ID とパスワード (「ReqPro」, 「reqpro」など) を入力します。
21. [パスワードの確認] ボックスに、もう一度パスワードを入力します。
22. [スキーマ] ボックスに、データベース管理者から指定された RequisitePro データベース テーブルの所有者のユーザー名 (**ReqPro**など) を入力します。
23. [OK] をクリックし、[データベースのアカウント情報] ダイアログ ボックスを終了します。[OK] をクリックして、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを終了します。
24. プロジェクトの作成が終了したら、[OK] をクリックして [プロジェクト] ダイアログ ボックスを終了します。

DB2 でのプロジェクトの作成

次の手順に従って、プロジェクト データベースに DB2 を使用する RequisitePro プロジェクトを作成します。

DB2 Client Configuration Assistant ツールを使用して、クライアント コンピュータから DB2 データベース サーバーにアクセスできるように設定できます。ほかのユーザーとプロジェクトを共有する場合は、データベース管理者が決定した整合性のあるデータベース エイリアスを必ず使用してください。

RequisitePro から DB2 にアクセスできるように設定するには、データベース管理者から次の情報を入手する必要があります。

- DB2 データベース別名
- RequisitePro プロジェクトを保存する DB2 スキーマの名前
- DB2 データベースへのログオン時に使用するユーザー ID
- DB2 データベースへのログオン時に使用するユーザー パスワード

DB2 内で RequisitePro プロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

1. RequisitePro で、[ファイル]、[新規作成]、[プロジェクト] をクリックします。[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. プロジェクト テンプレートを選択します。

注: ダイアログ ボックスの下部にある詳細の欄には、各テンプレートを選択するたびに、その説明が表示されます。

3. [OK] をクリックします。Rational の [RequisitePro プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. プロジェクト名とディレクトリの場所を入力します。
5. [データベース] フィールドのドロップダウン リストで [DB2] を選択し、[プロパティ] をクリックします。[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [構成] をクリックします。[DB2 の構成] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. DB2 データベースにアクセスするため、デスクトップの構成時に入力した DB2 データベース別名を入力します。

注: DB2 データベース内の共有 RequisitePro プロジェクトにアクセスするコンピュータは、これと同じデータベース別名を使用する必要があります。

8. [OK] をクリックします。[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
9. [アカウント情報] をクリックします。[データベースのアカウント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
10. DB2 サーバーにログオンするためのユーザー名を入力します (DB2 データベース管理者からあらかじめユーザー名を入手する必要があります)。
11. DB2 サーバーにログオンするためのユーザー パスワードを入力します。(DB2 データベース管理者からあらかじめパスワードを入手する必要があります。)
12. [パスワードの確認] ボックスに、もう一度パスワードを入力します。
13. [スキーマ] フィールドに、DB2 データベース管理者が RequisitePro のデータを DB2 に保存するために設定した DB2 スキーマの名前を入力します。
14. [OK] をクリックし、[データベースのアカウント情報] ダイアログ ボックスを終了します。[OK] をクリックして、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを終了します。
15. プロジェクトの作成が終了したら、[OK] をクリックして [プロジェクト] ダイアログ ボックスを終了します。

RequisiteWeb へのログイン

RequisiteWeb に初めてログオンするには

1. 使用する ReqWeb URL、データベース名、ユーザー名とパスワードを管理者に問い合わせます。
2. Web ブラウザを起動し、次の URL を入力します。

`http://<server name>/ReqWeb`

`server name` は、データベース サーバーの名前です。

3. [Enter] を押します。

RequisiteWeb のログオン ページが表示されます。

4. RequisiteWeb ログオン ページで次の操作を行います。
 - a. [プロジェクト] で、プルダウン メニューからプロジェクトを選択します。
 - b. [ユーザー] と [パスワード] に、管理者から入手した情報を入力します。
 - c. [ログオン] をクリックします。

追加テスト ソフトウェアのインストール

IBM Rational テスト環境のセットアップを完了するには、次の追加ソフトウェアをインストールします。リストについては、表 21を参照してください。

表 21. 追加テスト ソフトウェアのインストール

| チェック | タスク |
|------|---|
| | 69 ページの『ネットワーク ドライバのインストールと削除』 |
| | 71 ページの『IBM Rational Test Agents のインストール』 |
| | 73 ページの『ManualTest Web へのアクセス』 |
| | 76 ページの『サンプル アプレットのインストール』 |

ネットワーク ドライバのインストールと削除

パフォーマンス テスト用にネットワーク上でのセッションを記録するには、IBM Rational Test ネットワーク ドライバをインストールします。以前のバージョンのネットワーク ドライバがインストールされている場合は、それを削除してから現在のネットワーク ドライバをインストールします。ここでは、Windows NT、XP、2000 でこの作業を実行する方法について説明します。

Windows NT でのネットワーク ドライバのインストール

IBM Rational Test ネットワーク ドライバを Windows NT にインストールするには

1. IBM Rational テスト ソフトウェアをインストールします。
2. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[コントロール パネル] をクリックします。
3. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
4. [プロトコル] をクリックします。
5. [プロトコル] をクリックします。
6. [ディスク使用] をクリックします。必要なファイルは、IBM Rational Test のインストール時に IBM Rational ディレクトリにコピーされています。
7. 次のいずれかのファイル パスを指定してドライバをインストールします。
 - Windows NT イーサネット ネットワークの場合は、次のように入力します。

C:¥Program Files¥Rational¥Rational Test¥driver

または、<installpath>¥Rational¥Rational Test¥driver

installpath は、テスト ソフトウェアのインストール先のドライブとパスです。

- Windows NT トークンリング ネットワークの場合は、次のように入力します。

C:¥Program Files¥Rational¥Rational Test¥drivertk

または、<installpath>¥Rational¥Rational Test¥drivertk

installpath は、Rational テスト ソフトウェアのインストール先のドライブとパスです。

注: コンピュータに一度にインストールできるドライバのタイプは、イーサネットまたはトークンリングのいずれか 1 つだけです。新しいタイプのドライバをインストールする前に、もう一方のドライバを削除します。

8. [OK] をクリックします。
9. [OEM オプションの選択] ダイアログ ボックスで、再度 [OK] をクリックしてドライバを確認します。
10. [閉じる] をクリックします。
11. ネットワーク ドライバをインストールしたら、[はい] をクリックして Windows を終了し、コンピュータを再起動します。

Windows NT からのネットワーク ドライバの削除

イーサネット ネットワークからトークンリング ネットワークに、またはその逆に切り替える必要がある場合は、必要のないネットワーク タイプのドライバを削除してから新しいネットワーク タイプのドライバをインストールします。

Windows NT からネットワーク ドライバを削除するには

1. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[コントロール パネル] をクリックします。次に、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
2. [サービス] タブをクリックします。
3. [ネットワーク サービス] リストから Rational ネットワーク ドライバを選択します。
 - 現在のドライバが Rational Suite PerformanceStudio® 1.0 またはそれ以前の場合は、[PerformanceStudio Network Driver] をクリックします。
 - 現在のドライバが Rational Suite PerformanceStudio 1.5 または 2000 の場合は、[RSPS Network Driver] をクリックします。
4. [削除] をクリックします。
5. [はい] をクリックします。
6. 削除が完了したら、[閉じる] をクリックします。
7. [はい] をクリックしてコンピュータを再起動します。

コンピュータが再起動したら、新しいネットワーク ドライバをインストールします。

Windows XP またはWindows 2000 でのネットワーク ドライバのインストール

Rational Test ネットワーク ドライバを Windows XP または Windows 2000 にインストールするには、次の手順を実行します。

1. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] をクリックします。
2. [ローカル エリア接続] を右クリックし、コンテキスト メニューから [プロパティ] をクリックします。

3. [インストール] をクリックします。
4. [プロトコル] をクリックしてから [追加] をクリックします。
5. [ディスク使用] をクリックします。
6. ドライバの保存先のパスを入力するか、ドライバを参照します。たとえば、次のように入力します。

C:\Program Files\Rational\Rational Test\driverw2k

または、<installpath>\Rational\Rational Test\driverw2k

installpath は、テスト ソフトウェアのインストール先のドライブとパスです。

7. [イーサネット] または [トークンリング] ネットワークをクリックし、[OK] をクリックします。
8. ネットワーク ドライバをインストールしたら、[はい] をクリックして Windows を終了し、コンピュータを再起動します。

Windows XP または Windows 2000 からのネットワーク ドライバの除去

Windows XP または Windows 2000 コンピュータからネットワーク ドライバを削除するには

1. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] をクリックします。
2. [ローカル エリア接続] を右クリックし、コンテキスト メニューから [プロパティ] をクリックします。
3. [ネットワーク サービス] リストの [Rational Test Network Driver 2000] をクリックします。
4. [アンインストール] をクリックします。
5. [はい] をクリックしてドライバの削除を確認します。
6. 削除が完了したら、[閉じる] をクリックします。
7. [はい] をクリックしてコンピュータを再起動します。

IBM Rational Test Agents のインストール

ローカル コンピュータに IBM Rational テスト ソフトウェアをインストールしてライセンス キーを入力した後は、ほかのコンピュータに Test Agent をインストールすることができます。同じバージョンの IBM Rational テスト ソフトウェアをローカル コンピュータと Agent コンピュータにインストールする必要があります。インストールしないと、テスト ソフトウェアはいずれも機能しません。

注: Automated または手動スクリプトを含むプロジェクトを共有する場合は、Uniform Naming Convention (UNC) を使用して共有ディレクトリにプロジェクトを作成します。Agent コンピュータ上で実行する自動テスト スクリプトと手動テスト スクリプトには、UNC パスが必要です。共有ディレクトリの作成の詳細については、『IBM Rational Suite 管理ガイド』または Rational Administrator のヘルプを参照してください。

Windows Agent のインストール

Rational セットアップ ウィザードを使用して、IBM Rational Test Agent を Windows コンピュータにインストールします。

Windows Agent の起動: Windows Agent は、アプリケーションの 1 つとして動作します。Agent を起動するには、実行可能ファイルをクリックするか、スタートグループに実行可能ファイルを配置します。

Windows NT では、Agent が唯一の仮想テスターである場合は、Agent を NT サービスとして実行できます。

Agent を NT サービスとして実行するには

1. Windows の [スタート] ボタンを右クリックします。[開く - All Users] をクリックします。
2. [プログラム] をダブルクリックします。
3. [スタートアップ] をダブルクリックします。Agent を実行中の場合は、終了します。
4. [Rational Test Agent] アイコンを右クリックして [削除] をクリックします。
5. ローカル コンピュータを Agent として実行する場合は、次の操作を行います。
 - a. Windows の [スタート] メニューから、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 - b. 「**rtpsvc -install**」と入力して [OK] をクリックします。
6. Agent を NT サービスとして起動する場合は、次の操作を行います。
 - a. Windows の [スタート] メニューの [設定] をポイントし、[コントロール パネル] をクリックします。
 - b. [サービス] をダブルクリックします。
 - c. サービスのリストの[Rational Test Agent Service] をクリックし、[開始] をクリックします。
7. コンピュータの再起動時に自動的に Agent を起動するには、次の操作を行います。
 - a. [スタートアップ] をクリックします。
 - b. [スタートアップの種類] ボックスの [自動] をクリックし、[OK] をクリックします。

UNIX Agent のインストール

Agent ソフトウェアを UNIX または Linux コンピュータにインストールするには

1. スーパーユーザーとしてシステムにログオンします。
2. システム固有の mount コマンドを使用して Test Agent CD をマウントします。例を次に示します。

```
mount -F hsfs -r /dev/cd0 /cdrom
```

3. オペレーティング システム タイプに基づいて、Agent をコンピュータの一時ディレクトリにコピーします。例を次に示します。

```
cp /cdrom/solaris_agent.tar.gz /tmp
```

4. 一時ディレクトリに移動します。

```
cd /tmp
```

5. gzip を使用して Agent の tar ファイルを解凍します。

```
gzip -d -n solaris_agent.tar
```

6. Agent を配置するディレクトリを作成します。

```
mkdir /usr/rational
```

```
mkdir /usr/rational/test
```

7. Agent のターゲット ディレクトリに移動します。

```
cd /usr/rational/test
```

8. ターゲット ディレクトリに Agent を解凍します。

```
tar xvf /tmp/solaris_agent.tar
```

UNIX Agent の起動: UNIX Agent を起動するには

1. RATL_RTHOME 環境変数の値をターゲット ディレクトリに設定します。

```
RATL_RTHOME=/usr/rational/test; export RATL_RTHOME
```

2. ターゲット ディレクトリを PATH に追加します。

```
PATH=$PATH:/usr/rational/test
```

3. Solaris コンピュータのみを使用する場合は、LD_LIBRARY_PATH 変数の内容 (**echo \$LD_LIBRARY_PATH**) をチェックして、/usr/openwin/lib が含まれていることを確認してください。含まれていない場合は、次のシーケンスを使用して追加します。

```
LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:/usr/openwin/lib
```

```
export LD_LIBRARY_PATH
```

4. ターゲット ディレクトリの下に bin サブディレクトリに移動します。

```
cd /usr/rational/test/bin
```

5. Agent プロセスを開始します。

```
./RTsagt
```

UNIX Agent の除去

UNIX Agent を削除するには

1. rtprvd プロセスを検索し、**ps -efl grep rtprvd** を使用して終了します。
2. プロセスを終了します。

```
kill pid
```

```
rm -rf /usr/rational/test
```

ManualTest Web へのアクセス

管理者が Web サーバー上に ManualTest Web ソフトウェアをインストールし設定し終えたら、Web ブラウザで手動テスト スクリプト実装を使用してテスト ケースを実行します。

Web ブラウザのセットアップ

7 ページの『デスクトップ システムとソフトウェアの要件』 に示す Web ブラウザを使用してテスト ケースを実行できます。Web ブラウザは、サポートされている任意のオペレーティング システムで実行できます。

Netscape Navigator: テスト ケースを実行できるように Netscape Navigator ブラウザをセットアップするには

1. Netscape Navigator を起動します。
2. [編集] メニューの [設定] をクリックします。[カテゴリ] で [詳細] をクリックします。
3. [詳細] をダブルクリックし、[キャッシュ] をクリックして [キャッシュ] パネルを表示します。
4. [キャッシュ] パネルの [ページにアクセスするたび] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

Microsoft Internet Explorer: テスト ケースを実行できるように Microsoft Internet Explorer ブラウザをセットアップするには

1. Internet Explorer を起動します。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Internet Explorer 5.0 以上の場合は、[ツール] メニューの [インターネット オプション] をクリックします。
 - Internet Explorer 4.0 の場合は、[表示] メニューの [インターネット オプション] をクリックします。
3. [全般] タブをクリックします。
4. [インターネット一時ファイル] の [設定] をクリックします。
5. [保存しているページの新しいバージョンの確認] の [ページを表示するごとに確認する] をクリックします。

ManualTest Web へのアクセス

1. ManualTest Web の URL について、管理者に問い合わせます。
2. Web ブラウザを起動し、次の URL を入力します。

`http://<server name>/<alias>`

server name は Web サーバーのネットワーク名です。alias はユーザーまたは管理者が ManualTest Web Execution ソフトウェアをインストールした Web サーバー上のディレクトリです。

ほかのユーザーが Web ブラウザから手動テスト スクリプトにアクセスできるようにするには、『共有プロジェクトについて』を参照してください。

共有プロジェクトについて: 作成したプロジェクトを共有プロジェクトにすると、ほかのユーザーが Web ブラウザから手動テスト スクリプトにアクセスできるようになります。プロジェクトを共有するには、プロジェクトを共有ディレクトリに作成し、ディレクトリ名に Uniform Naming Convention (UNC) を使用します。

例を次に示します。

¥¥testweb¥common¥test¥scripts

注: Agent コンピュータ上で実行する GUI テスト スクリプトの場合は、UNC パスが必要です。

トラブルシューティング

ここでは、Web ブラウザからテスト ケースを実行するときに発生する可能性のある問題とその解決方法について説明します。

注: ここに示すエラー メッセージは、ManualTest Web Execution のエラー メッセージであり、Web ブラウザのエラー メッセージではありません。

問題: Your Rational プロジェクトにログオンしたときに、Rational プロジェクトが表示されない。(「http://computername/alias」と入力して Rational プロジェクトにログオン。)

エラー メッセージ: なし。

解決方法: すべての Web クライアントが同じユーザー アカウントを使用して、Web サーバー (プロジェクトが Web サーバー上にある場合)またはドメイン (ドメイン内のほかのシステム上にある共有プロジェクトにアクセスする場合) にある Rational プロジェクトにアクセスします。

次のことを確認します。

- このユーザー アカウントに、Rational プロジェクトに対する書き込みと読み取りの管理者権限があることを確認します。(Web サーバーに設定したユーザー アカウントの権限を確認するよう管理者に依頼します。)
- Web クライアントがアクセスできるようにするには、新しい Rational プロジェクトを作成するときにこのアカウントにログオンするか、Administrator を使用して既存の Rational プロジェクトを登録する必要があります。

問題: Web ブラウザからプロジェクトにログオンすると、エラー メッセージが表示される。

エラー メッセージ: プロジェクトに接続できません。

解決方法: Web サーバーの権限が正しく設定されていることを確認します。Web サーバーの特権について、管理者に問い合わせます。特権の設定の詳細については、『IBM Rational Software サーバー製品インストレーション ガイド』の「Microsoft Internet Information Server の設定」または「Microsoft Personal Web Server の設定」を参照してください。

問題: 手動テスト スクリプトを選択すると、エラー メッセージが表示される。

エラー メッセージ: メッセージ内に Server.ObjectCreate を含むエラー メッセージ。

解決方法: ユーザーまたは Web サーバー管理者が Microsoft Internet Explorer 5.0 以上を Web サーバーにインストールしたか確認します。

問題: ダイアログ ボックスでテキストを入力するときに、正しく動作しない。または、手動テスト スクリプトを開くと、前回のセッションの結果とコメントが既に入力されている。

エラー メッセージ: なし。

解決方法: Web ブラウザのキャッシュを無効にします。キャッシュを無効にする方法については、74 ページの『Web ブラウザのセットアップ』を参照してください。

問題: Web サーバーに接続すると、ログインのダイアログ ボックスが表示される。ログインのダイアログ ボックスで、プロジェクト選択リストが空になっている。

エラー メッセージ: なし。

解決方法: プロジェクトを作成して手動テスト スクリプトを作成するか、手動テスト スクリプトを含む既存のプロジェクトを登録します。

プロジェクトの作成または既存のプロジェクトの登録を行うには

1. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Microsoft Internet Information Server の場合は、テスト ケースを実行するために管理者が設定した仮想ディレクトリのユーザー アカウントにログオンします。詳細については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ガイド』の「Microsoft Internet Information Server の設定」を参照してください。
 - Microsoft Personal Web Server の場合は、Web サーバーを実行するユーザー アカウントにログオンします。詳細については、『IBM Rational Software サーバー製品インストール ガイド』の「Microsoft Personal Web Server の設定」を参照してください。
2. IBM Rational Administrator (RequisitePro、Robot、SQL Anywhere、TestFactory[®]、TestManager、Rational Suite 製品のインストール時にインストール済み) を起動して、新しいプロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを登録します。プロジェクトの作成または登録の詳細については、『IBM Rational Suite 管理ガイド』またはRational Administrator のオンライン ヘルプを参照してください。
3. 共有プロジェクトを作成または登録する場合は、IIS ではプロジェクト ディレクトリの権限が仮想ディレクトリのユーザー アカウント用に設定されていることを、PWS では Web サーバーを実行するユーザー アカウント用に設定されていることを確認します。
4. Web サーバーを再起動します。

サンプル アプレットのインストール

Java、HTML、Oracle Forms、PowerBuilder、Visual Basic 開発環境用のサンプル アプレットをインストールできます。

サンプル アプレットをインストールするには

1. Robot、TeamTest、TestStudio、または EnterpriseStudio のいずれかをインストールします。

注: インストールされている IBM Rational テスト製品が TestManager のみの場合は、IBM Rational サンプル アプレットをインストールすることはできません。

2. [スタート]、[プログラム]、[Rational Software]、[Rational <製品名>]、[Rational Test]、[Set Up Rational Test Samples] をクリックします。
3. インストールするサンプル アプレットを選択します。
 - HTML サンプル
 - Java サンプル
 - Visual Basic サンプル
 - PowerBuilder サンプル
 - Oracle サンプル
4. [次へ] をクリックします。
5. [完了] をクリックします。

第 4 章 IBM Rational 製品の削除

この章では、IBM Rational 製品をデスクトップから削除する方法について説明します。IBM Rational サーバー製品を削除するには、『IBM Rational Software サーバー製品インストールガイド』を参照してください。

IBM Rational ソフトウェアを削除する前に

ここでは、IBM Rational デスクトップ製品を削除するための一般要件について説明します。また、セットアップ ウィザードによってコンピュータから削除されるコンポーネントと削除されないコンポーネントについても説明します。

- アプリケーションを別のシステムに移動する場合は、まず、ライセンス キー ファイルをアカウントに返却します。ノードロック ライセンス キーまたはフローティング ライセンス キーを返却するには、オンライン ライセンス管理ツールである AccountLink (<http://www.ibm.com/software/rational/support/licensing/>) を使用します (ただし、英語のみのご利用となります)。ライセンスの移動または返却の詳細については、『IBM Rational Software ライセンス管理ガイド』を参照してください。
- IBM Rational 製品を削除しても、ライセンス キー、プロジェクト データベース、製品の使用中に作成したその他のファイルは削除されません。製品のアップグレード版を別のドライブにインストールする場合や、新しいインストール パスを使用する場合は、これらのファイルのバックアップを作成して手動で削除します。削除しないと、セットアップ プログラムによってこれらのファイルが検出され、新しい場所ではなく、以前の場所にアプリケーションがインストールされる可能性があります。
- IBM Rational 製品 (IBM Rational ライセンス サーバーを含む) をクライアントから削除する前に、License Key Administrator (LKAD) で指定されたライセンスサーバーのホスト名を記録しておきます。
 1. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software] をポイントし、[Rational License Key Administrator] をクリックして、LKAD を起動します。
 2. [設定] メニューの [クライアント/サーバーの構成] をクリックして、ホスト名を探します。
 3. 新しい IBM Rational 製品をインストールした後で、LKAD 内のライセンスサーバー名をリセットします。インストールが終了すると、LKAD ウィザードが起動します。ウィザードが起動しない場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Rational Software] をポイントし、[Rational License Key Administrator] をクリックします。
- Windows NT、2000、2003、または XP システムから IBM Rational 製品を削除するには、ローカル システムに対する Windows 管理者権限が必要です。
- アプリケーションや関連ファイルを使用しているユーザーがいなかったことを確認します。使用中のファイルを削除することはできません。

IBM Rational ソフトウェアの削除

Windows のコントロール パネルの [アプリケーションの追加と削除] を使用して、製品を選択して削除します。[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[コントロール パネル] をクリックし、[アプリケーションの追加と削除] をクリックします。製品を選択し、[削除] をクリックします。

RUP Modeler の削除

Windows のコントロール パネルの [アプリケーションの追加と削除] を使用して、ソフトウェアを削除します。その後、RUP Modeler をインストールした場所を検索します。デフォルトの場所は C:\Program Files\Rational\RUPModeler です。RUPModeler というフォルダが IBM Rational ディレクトリにまだ存在する場合は、そのフォルダ全体を削除します。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Department BCFB
20 Maguire Road
Lexington, MA 02421
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、このサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (お客様の会社名) (年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。(C) Copyright IBM Corp. _年を入れる_.All rights reserved.

追加の法的通知は、お客様の Rational ソフトウェア インストレーションに含まれています。

商標

IBM、ClearCase、ClearCase MultiSite、ClearQuest、DB2、Rational、RequisitePro は、IBM Corporation の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan

G126-5384-03



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12